2026

Global Human Sciences

神戸大学国際人間科学部

人という始源、
地球という舞台。

グローバルイシューへの挑戦

国際人間科学部は、深い人間理解と他者への共感をもって地球的規模の課題に向き合い、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成します。現代の世界には、環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わり、現代社会が地球規模での協働を通して取り組まなければならない課題（「グローバルイシュー（global issues）」と呼びます）が数多く存在しています。本学部では、様々な専門分野からこのグローバルイシューの構造を明らかにし、多様な境界線を越えて人々と自在にコミュニケーションをとり、課題の共有と解決に向けてリーダーシップを発揮できる「協働型グローバル人材」を社会に輩出することを目指します。

アドミッション・ポリシー

国際人間科学部では、グローバル社会で生起する環境、災害、民族、宗教、経済格差、人権、教育、社会福祉等に関わる諸課題を深い人間理解と他者への共感をもって解決し、世界の人々が多様な境界線を越えて共存できる「グローバル共生社会」の実現に貢献する「協働型グローバル人材」を養成することを目的としています。そのために、次のような学生を求めています。

国際人間科学部の求める学生像

1 現代社会の諸問題を発見し、その問題を多面的にとらえて考察し、自分の考えをまとめる基礎的な能力を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

2 異なる考え方や文化を尊重し、共感をもって、積極的にコミュニケーションを行う資質を有する学生
〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性、関心・意欲〕

3 国内外の様々な人と連携・協働して、地球規模で問題を解決し、社会に貢献しようとする意欲を持つ学生
〔求める要素：主体性・協働性、関心・意欲〕

沿革

発達科学部・人間発達環境学研究科

1874年（明治7年）　兵庫県師範伝習所設置
1949年（昭和24年）　兵庫師範学校と兵庫青年師範学校を統合し、神戸大学教育学部設置
1981年（昭和56年）　神戸大学大学院教育学研究科修士課程設置
1992年（平成4年）　神戸大学教育学部を改組し、神戸大学発達科学部設置
1997年（平成9年）　神戸大学大学院教育学研究科を改組し、神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程設置
1999年（平成11年）　神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程設置
2005年（平成17年）　神戸大学発達科学部改組
2007年（平成19年）　神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院人間発達環境学研究科設置

国際文化学部・国際文化学研究科

1923年（大正12年）　官立姫路高等学校設立
1949年（昭和24年）　神戸教養課程設置
1963年（昭和38年）　神戸大学教養部設置
1992年（平成4年）　神戸大学教養部を改組し、神戸大学国際文化学部設置
1997年（平成9年）　神戸大学大学院教育学研究科を改組し、神戸大学大学院総合人間科学研究科修士課程設置
1999年（平成11年）　神戸大学大学院総合人間科学研究科博士課程設置
2005年（平成17年）　神戸大学国際文化学部改組
2007年（平成19年）　神戸大学大学院総合人間科学研究科を改組し、神戸大学大学院国際文化学研究科設置

国際人間科学部

2017年（平成29年）　神戸大学国際文化学部と発達科学部を再編統合し、神戸大学国際人間科学部を設置

神戸大学 国際人間科学部

学部長からのメッセージ …… 2
先輩からのメッセージ …… 3
カリキュラム・施設 …… 4
グローバル教育 …… 6
グローバル体験 …… 8
学部を構成する4学科 …… 9
カリキュラム …… 18
教員紹介 …… 22
国際交流 …… 28
進路実績 …… 30
募集人員、取得可能な資格免許、学生支援 …… 32
アクセス …… 33

学部長からのメッセージ

Message From Dean

佐藤春実 教授
国際人間科学部長

21世紀になって、情報通信技術の進化や交通手段の発達により、人や物および情報の国際的移動が大きく活発化し、人も国も外国と無縁ではいられない時代となっています。

このようなグローバル化が急速に進む世界の中で、私たちの身の回りでもさまざまな課題が浮かび上がっています。地球的な資源・エネルギーの制約や環境の悪化、富の偏在などによる分断や格差の拡大、少子高齢化などの人口問題など個人や一国では解決できない課題が地球上のいたるところに存在しています。さらに新型コロナウィルスの世界的感染拡大は、それ自身グローバル化により深刻さが増大した問題でもありますが、その結果引き起こされている事態は、格差の拡大などの前述の諸問題の存在をあらためてあぶり出すことにつながっています。

これらの中には、時に関係者・関係国の利害が大きく対立する問題も数多く、こうした問題には、さまざまな人々が地球規模で境界を越えて協働することの重要性が認識されつつあります。そして、その動きをより確かなものにするため、複眼的な視点と柔軟な姿勢をもち国内外で地球的課題（グローバル・イシュー）に積極的に関わる人々の養成が不可欠といわれます。

そうした中、神戸大学は2017年に国際人間科学部を創設しました。国際人間科学部では、深い人間理解と他者への共感をもって地球的課題と向き合い、多様な人々が共存する「グローバル共生社会」の実現に向けて貢献する「協働型グローバル人材」を育成することを目的としています。国際人間科学部は、神戸大学の国際文化学部と発達科学部を再編統合して作り上げた学部です。2つの学部はそれぞれ「異文化理解」「人間発達」をキーワードとして四半世紀前に設置された学際系学部です。この2つの学部で醸成された強みと特色を最大限に活かし、国際人間科学部は新たな時代に向けて「協働型グローバル人材」の育成につとめています。2025年3月に5回目の卒業生を輩出したばかりの新しい学部ですが、未来への道を模索すべく教員と職員が学生諸君と一体となって実践的な学問プロジェクトに挑戦し邁進しています。熱意あるみなさんが、この学問共同体に参加されることを強く期待します。

先輩からのメッセージ

Messages From Students

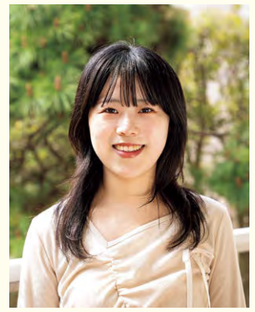
言語というレンズを通して政治や社会を見る

私は、コミュニケーションにおける言葉のはたらきを主な研究テーマとするゼミに所属しています。その中でも、欧米の政治家がSNS上でどのような言葉を用いるのかに関心をもっており、英語とドイツ語で書かれた投稿を対象とした卒業研究に取り組んでいます。テキストの言語的な特徴を丁寧に分析することで、その言語が使われた背景にある政治や社会に関する洞察が得られる点が面白いと感じています。グローバルな視点から言語や政治、社会を学んできた経験を今後の研究に活かし、将来的には国際的に活躍できる人材になりたいと考えています。

奥村耕司
グローバル文化学科
言語情報コミュニケーション系
プログラム
2024年度卒業

専門はアート、テーマは街歩きと人々の関心

私はデザイン学や生態心理学の分野に関心があり、ゼミでは街歩きと人々の関心について研究しています。幼い頃から図画工作など創作活動を好み、現在は人が入り込む空間のデザインや印象の受け方にも興味を持つ私の好奇心に合致した学習を、興味・関心が似た仲間たちと楽しくしています。所属プログラムでは、知覚と行為について考え、環境と出会う無意識なふるまいを身近な視点で検証したり、音楽やダンスやアートと専門の違う仲間と共同で作品を制作したりしています。将来は観光や不動産の要素ある仕事で、街づくりや空間づくりに携わりたいです。



谷口若菜
発達コミュニティ学科
アートコミュニケーション
プログラム
4年

人間の宗教の多様性を探索する

社会共生科学プログラムには、社会学や経済学、地域研究、開発学と幅広い分野の専門家がいます。また、複数のゼミを受講することができ、多様な学びを深めることができる環境が整っています。私はフィールドワークを中心に行うゼミに所属しており、文化、特に宗教に関心をもっています。ゼミでは3年生時にフィールドワークを行うのですが、そこでは大阪市天王寺区の地蔵信仰を調査しました。アフリカの地域研究にも興味があり、今後は大学院に進学してアフリカの宗教を研究し、なぜ人は宗教を持つのかという根源的な問いに取り組みたいです。

清覚柊太
環境共生学科
社会共生科学プログラム
4年

障害児の内面を理解した教育に向けて

私は入学前から教職を目指したいと思い、この学科に入学しました。入学してみると、教職以外にも多様な進路を考えている仲間も多く、彼らと共に授業や実地経験を積むことで、より多様な視点からの教育についての考えを深めることができています。仲間との学びを深めるなかで、発達障害児の学校生活における困難について興味を持つようになりました。ゼミでは、特に障害児の心理的側面をふまえた学校の在り方について学んでいます。卒業後は、特別支援学校教員になり、子どもたちが自他を肯定しながら明るい人生を歩むための基礎を作るような教育をしたいと思っています。

常楽瑛歩
子ども教育学科
学校教育学コース
4年

カリキュラム・施設

Curriculum & Facilities

学びの特色

1 グローバルな発信と課題解決のための基礎をつくる

グローバル社会に対し即応可能な発信力を養うため、複数言語でのプレゼンテーションやライティング、またICTによる情報発信など、目的に応じて多数開講される科目を受講し、十分なコミュニケーション能力を身につけます。また、グローバルイシューの現場で実際に情報を収集・分析するために必要な技能を身に付けることを目的として、多様な人々と協働しつつ課題解決に向けて先導する能力を開発するための「協働型リーダーシップ論」や、フィールド学修を通して実際のグローバルイシューの実態を把握するために必要な基本的技能を培う「フィールドワーク方法論」などの専門科目を学び、実践的対応力を習得します。

2 実践的なグローバルを体験する （詳細は、p.6へ）

グローバルイシューの解決のために多様な人々と協働し、その活動の中でリーダーシップを発揮する行動力を身に付けるための実践型教育プログラムとして、「グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）」を設置しています。このプログラムでは、専門性と希望に応じ用意されたコースの中から、学生全員が自らの海外または国内での学びの場を選択し、学修の具体的な課題を自ら設定してフィールド学修に参加します。GSPを通じて得た具体的な体験から、グローバルイシューを解決する際に必要な問題意識や実践的な視点を獲得し、それらを理論的知識に接合して、自らの将来のキャリア形成に活かしていきます。

3 多角的視点から専門的知識を身に付ける

「異文化理解」「人間発達」「環境共生」に視点をおき、多文化をめぐる複雑な問題の解決への道筋を提案する発信力、「人間の発達」の諸相を理解しそれを支えるコミュニティの形成を実現する実践力、共生社会を支える環境の創出と保全に寄与する分析力と行動力、さらに、これと連携し次世代指導者を育成する教育力を身に付けるための専門的知識を学びます。ラーニングコモンズなどの施設、フィールド学修、広い知見と豊富な経験をもつ教員の配置など、全ての形式の授業（講義、演習、実験・実習）においてアクティブ・ラーニングを推進する環境を通じて、専門的知識をベースに、自ら課題を発見し解決する力を養います。

	1年次	2年次	3年次	4年次
	基礎能力を得る	専門知識を得る 応用力と実践力を得る		研究に取り組む
	教養科目 「複眼的に思考する」「多様性と地球的課題を理解する」「協働して実践する」能力を伸ばすための科目			
グローバル文化学科 発達コミュニティ学科 環境共生学科 子ども教育学科	学部共通科目	**グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）** 他者と協働しつつリーダーシップを発揮する知的行動力を身に付けるための実践型教育プログラム	→詳細は p.6	
	学部共通科目	［**基礎科目**］協働型グローバル人材として活躍するために不可欠な基礎的能力を向上させるための科目 ［**発展科目**］さらに洗練されたグローバルリテラシーを身に付けるための科目		**卒業研究**
	学科専門科目	［**共通科目**］		
	学科専門科目	［**コア科目**］各学科において、専門性を深く学修するために必要な基礎的知識を得るための科目 ［**展開科目**］各学科において、より発展的な専門知識を修得し、実践力、問題解決能力を修得するための科目		

進路

大学院進学

国際文化学研究科
人間発達環境学研究科
その他の国内外の大学院

就職

一般企業 公務員
国際機関 教員
NPO・NGO 等

鶴甲第1キャンパス

グローバル文化学科

鶴甲第2キャンパス

発達コミュニティ学科
環境共生学科
子ども教育学科

詳細は、
グローバル文化学科 …… p.10
発達コミュニティ学科 …… p.12
環境共生学科 …… p.14
子ども教育学科 …… p.16

交流スペース

2つのキャンパスには、学生同士が活発に交流できるスペースとして、それぞれ「Intercultural Cafe」（鶴甲第1キャンパス）、「Global Human Science Cafe」（鶴甲第2キャンパス）が置かれています。特に、毎年、世界各国から多くの留学生が学ぶ国際人間科学部では、これらのスペースの利用やそこで実施される行事への参加を通じて、様々な文化的背景を持つ学生と交流し、多種多様な世界の文化に触れ、理解を深めることができます。

ICT関係の設備

無線LAN、学内ネットワーク、PC必携化、図書館データベースなど

国際人間科学部のほぼすべての教室や共有スペースにおいて、学内無線LANへのアクセスが可能です。神戸大学では、高度情報化社会において情報通信技術の十分な活用能力を有する人材を育成し、それらの技術を活用した教育の提供を目的に、パソコンの必携化を実施しています。学修支援システム（BEEF等）を利用した双方向授業、レポートの作成・提出、講義資料の閲覧、電子雑誌・図書の閲覧等にパソコンを活用します。

ラーニングコモンズ

ラーニングコモンズ（Learning Commons）とは、学生や教職員が自由に利用できる創造的学習のためのスペースです。教室とは異なるオープンな場であり、学生が自由に出入りして多様な人と交流しつつ、学問の垣根を超えた議論を通じて、開かれた協同の学びを実践する場であることをコンセプトとしています。国際人間科学部には、鶴甲第1キャンパスに4箇所、鶴甲第2キャンパスに4箇所のラーニングコモンズが設置され、学生同士が話し合いながら行うグループ学習や、ゼミ・発表の準備、プレゼンテーションの練習などに活用されています。

図書館

神戸大学附属図書館は、各学部・研究科の研究領域をサポートする専門図書館と、総合図書館の合計9つの図書館から構成されます。国際人間科学部では、鶴甲第1キャンパスに総合・国際文化学図書館、鶴甲第2キャンパスに人間科学図書館が設置されています。 また、ウェブ上で読める雑誌や本のほか、新聞記事、論文情報などを調べられるデータベースが充実しています。また、ガイダンス、講習会、各種イベントを通して、データベースの使い方やレポートの書き方など、大学生活に役立つスキルを演習形式で学ぶこともできます。

グローバル教育　Global Education

本学部生全員が国内外でのフィールド学修に参加

Global Studies Program（GSP）グローバル・スタディーズ・プログラム

グローバル・スタディーズ・プログラム（GSP）とは、実体験を通してグローバルイシューについて学ぶことを目的とし、本学部生全員が国内外でのフィールド学修に参加する実践型教育プログラムです。国内外のフィールドで実施される個別プログラムへの参加を通じて、グローバル社会の課題解決を目指して多様な人々と協働し、その中でリーダーシップを発揮していくために必要な力を自らの中に育てていきます。

1　グローバルイシューの現場での実践的な取り組み

「グローバルイシュー概論・演習」を通じ、文理の境界を越えた様々なグローバルイシューについて学びます。そこで培った自らの興味・関心にもと づき、学生自身がテーマ設定をして、海外、国内の「現場（フィールド）」を選択します。フィールドで実際に様々な人々と出会い、協働することを通して、より広い視点から自らのテーマをグローバルイシューとして深化させ、その解決を模索します。

2　多様なプログラム

GSPでのフィールド学修の場所には、海外と国内が用意されています。学生は、自らの学修計画に応じて、海外、国内のいずれか一方を選択し、さらに海外、国内それぞれのもとにある多数のプログラムの中から、自分が取り組むグローバルイシューに最も適したプログラムに参加します。

※国内のプログラムは、グローバルイシューに関連する海外渡航を伴わない国内でのフィールド学修です。オンラインで海外とつなぐプログラムを含みます。

3　学生一人一人の専門性に合わせた学修指導──GSPオフィス

GSPでの学修を支援するために、GSPオフィスを設置し、事前・事後学修や、危機管理オリエンテーション等、きめ細かい情報提供と学生の主体性を引き出す指導をしています。

GSPオフィス

国内外でのフィールド学修の豊富な経験をもつコーディネーターが、学生一人一人がGSPの各科目を効果的に学修し、目的を達成できるよう、学業と海外生活の両面についてアドバイスを行います。個別プログラムに関する最新情報の提供や危機管理に関するアドバイスの他、神戸大学全体はもちろん、海外危機管理専門の機関とも連携しながら、渡航中の学生の安全確認等を実施します。

GSPオフィス教員

室長	辛島理人 准教授
副室長	高見和至 教授
統括コーディネーター	正楽 藍 准教授
コーディネーター	榎井克明 講師
コーディネーター	篠原華子 助教
コーディネーター	武田和代 助教

［GSPの流れ］

GSPは、事前学修、プログラム参加（海外実施GSコースと国内実施GSコース）、事後学修の3つのステージで構成されます。

事前学修

グローバルイシュー概論
代表的事例の現状と解決策を専門的見地から学修

グローバルイシュー演習
アクティブ・ラーニングを通じて具体的な事例を学修

▶

プログラム参加

コース選択

海外実施GSコース

国内実施GSコース

▶

事後学修

グローバルな課題に対する自己の実践の意義づけ

フィールド学修についての振り返り

海外実施GSコース

交換留学、海外スタディツアー、海外語学研修、サマースクールなどのいずれかに参加し、海外の現地において、［海外フィールド学修］を行います。

交換留学
1年もしくは半年の協定校（p.28−29参照）への留学中に［海外フィールド学修］を行います。交換留学では、神戸大学に学費を納めることで、協定校の学費・入学金が免除されます。また、協定校で修得した単位を神戸大学の単位として算入することができます。

［海外フィールド学修］の例
★日英の家庭教育支援を比較研究する（イギリス）
★非破壊機材で農産物分析をする（タイ）
★アートマネジメント・芸術教育を学ぶ（オーストリア）
★アカデミック英語研修（イギリス）
★中国語と台湾文化（台湾）

海外スタディツアー
事前学修で修得した専門的知識を［海外フィールド学修］の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組みます。

海外語学研修、サマースクール
海外の大学などで語学研修やサマースクールに参加することにより国際的な視野を獲得すると共に、［海外フィールド学修］を通じて、比較文化的・多元的な視点からグローバルイシューに取り組みます。

国内実施GSコース

事前学修で修得した専門的知識を［国内フィールド学修］の現場で応用し、その地域の人々と協働しながら実践的にグローバルイシューに取り組みます。このコースは、オンラインで海外とつなぐ［オンラインプログラム］を含みます。ただし、海外渡航は伴いません。

［国内フィールド学修］の例
★日本の伝統文化と地域づくりを海外からの研究者や芸術家と学ぶ（淡路島）
★外国人児童の学習支援と多文化共生を学ぶ（神戸市）
★離島の文化遺産・環境・観光・地域振興を学ぶ（奄美群島）
★寒冷地コミュニティにおけるウインタースポーツとまちおこし（北海道）

［オンラインプログラム］の例
【オンライン】持続可能な農業と社会を学ぶ（京都市、ネパール）
【オンライン】海外の大学生との合同研修で芸術文化を学ぶ（ハンガリー）

（注1）海外、国内フィールド学修は、他にも多数のプログラムが用意されています。
（注2）個別のプログラムへの参加費用や必要となる保険加入等は自己負担となります。海外研修に係る学生の経済的な負担を軽減するため、神戸大学の助成制度やJASSOの支援制度を活用することができます。

グローバル体験

Global Experiences

国内外で様々な体験をした先輩からのメッセージを紹介

異文化交流が広げた可能性

［参加プログラム］
アラバマ大学：英語・文化研修（アメリカ）

石野真央
発達コミュニティ学科 3年

アラバマ大学への留学はカレッジスポーツへの関心から始まりましたが、現地で得た経験はそれだけにとどまりませんでした。スポーツを通じて地域社会との深いつながりを実感し、また言語や文化の違いに直面するなかで、異なる価値観を受け入れる重要性を学びました。この留学は語学力の向上だけでなく、自分の視野を大きく広げる貴重な機会となり、将来の目標を見つめ直すきっかけにもなりました。今後も挑戦を続け、将来のキャリアでは多様な視点を持ち、柔軟に対応できる人材として成長していきたいと強く思っています。

異文化に飛び込むことで出会える楽しさ

［参加プログラム］
マドリード自治大学：スペイン語研修と
　文化体験（スペイン）
京都美山：京都美山（国内）

小森海渡
グローバル文化学科 3年

参加したプログラムを通して、異文化理解と円滑なコミュニケーションには柔軟性と積極性が重要だと実感しました。当初、言語の壁に直面し苦労しましたが、積極的にかかわりを持とうとすることで相手の文化を尊重する姿勢が大切だと学び、多様な背景を持つ人々との交流から多くを吸収できました。この経験から、今後は言語能力の向上だけでなく、他の言語や文化についても幅広く学ぶ必要性を感じています。多言語能力を高めつつ、異文化への理解と共感力を深めることで、固定観念を見直し、新しいことに挑戦し続ける姿勢を大切にしていきます。

子どもの将来につながる教育を目指して

［参加プログラム］
グルノーブル・アルプ大学：フランス語（フランス）
不登校の学校復帰支援プログラム：
　伊丹市立総合教育センター（国内）

武政遥花
子ども教育学科 4年

私は日本の教育に対する考えの変容や広がりを経験しました。フランスでは語学学校の先生やホストマザーと話し、日本との教育観の違いを感じました。国内研修では進路に悩んでいる不登校の子どもや、それを支える大人に出会いました。不登校の子どもが勉強や遊びにひたむきに取り組んでいる姿を見て、どんな子どもでも自由に将来の進路を選べるようにするべきだと感じました。このことをきっかけに、卒業研究では不登校生徒のキャリア支援をテーマにする予定です。卒業後は子どもに寄り添うことのできる教師になりたいと思っています。

現地大学生との交流がもたらしてくれたもの

［参加プログラム］
文化発信としての言語教育・言語学習：
　海外大学日本語学科へのインターン・プログラム
（タイ）

鈴木華奈
環境共生学科 3年

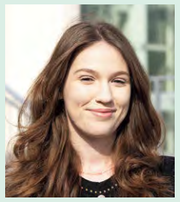
私はアジアの貧困問題や日本語教育に興味がありこのプログラムに参加しました。滞在中の2週間は現地大学生に生活をサポートしてもらいながら大学で日本語の授業に参加したり、学生と地元の市場に行ったりと貴重な経験をさせていただきました。何より嬉しかったのは今でも連絡を取り合うほどの友人ができたことです。タイ人学生と過ごした時間は一生の思い出です。また、この留学を通じてネットの情報と実情との差異に気づきました。今後はこの経験を活かして、事前に得た情報にとらわれず自ら調査してアジアの社会問題の研究に取り組みたいです。

留学生メッセージ

How Kobe University is Helping with My Future

Muilenburg James Wesley
マーレンバーグ・ジェームズ・ウェスリー
［出身］ジョージア大学（アメリカ）

My purpose of studying at Kobe University is to become better at Japanese, and I plan to use that knowledge to do research in the future. At my home university, I major in both geology and Japanese Language and Literature. The opportunity to study at Kobe University will surely allow me to reach my goals of becoming bilingual. Understanding how different cultures study geology will not only improve my understanding of the discipline, but it will also allow for the understanding of how different languages work. I would not be able to do any of this without the incredibly talented professors teaching me. The education quality at Kobe University is superb, and the opportunity to study at a prestigious university in a city like Kobe offers an experience like no other. After my time here, I will continue studying geology and Japanese for the sake of being able to do research in both English and Japanese and perhaps bridge any gaps between Japanese and English-speaking scientists.



My Experience in Kobe University

Mosutan Melissa Maria
モスタン・メリッサ・マリア
［出身］バベシュ・ボヨイ大学（ルーマニア）

My experience at Kobe University is the most important in my personal development. When I look back a year ago and see how much I have grown since then, I can only say: “Thank you, Kobe University!” I am pleasantly surprised by the differences in teaching, such as the emphasis placed not only on learning, but also on understanding. The teachers are very kind and have always made me feel included and that my opinions matter. The staff are also very caring and supportive throughout my stay. This experience has also helped me to make connections with people that I have enjoyed and made lifelong memories with. I am sure that the year I spent at Kobe University will provide me with many opportunities in the future, as it was one of the best forms of education I have experienced. As a SEN-PAI, my advice is: Come to Kobe University if you want to have a developing and memorable experience!

学部を構成する4学科

グローバル文化学科 …… 10
地域文化系プログラム
異文化コミュニケーション系プログラム
現代文化システム系プログラム
言語情報コミュニケーション系プログラム
取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

発達コミュニティ学科 …… 12
社会エンパワメントプログラム
心の探究プログラム
アクティブライフプログラム
ミュージックコミュニケーションプログラム
アートコミュニケーションプログラム
取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

環境共生学科 …… 14
環境自然科学プログラム
環境数理科学プログラム
生活共生科学プログラム
社会共生科学プログラム
取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

子ども教育学科 …… 16
学校教育学コース
乳幼児教育学コース
取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）
　学士（教育学）（Bachelor of Education）

Department of Global Cultures

グローバル文化学科

本学科では、多文化間の境界を乗り越えるグローバル共生社会を実現するため、高度な外国語の運用能力とICT教育に基づく情報分析力や発信力を駆使して、異文化間のコミュニケーションと相互理解を率先して推し進め、多文化状況、文化交流、文化摩擦等をめぐるグローバルな課題の解決への道筋を社会に発信する能力をもつ人材を養成することを目標とします。この目標を達成するために、「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」の4つの教育研究の柱を置き、これらの切り口から人間社会における多様なグローバルイシューを解決する糸口を探していきます。

予想される進路

本学科が育成するグローバルな課題に関するリーダーシップを発揮できる人材は、現代社会の幅広い分野で求められています。卒業生の進路としては、海外展開の活発な製造業、マスコミ、情報通信業、金融業の他、外務省・経済産業省や各都道府県などの国家・地方公務員、JICA・兵庫県国際交流協会等の国際協力機関に加え、大学院進学等が考えられます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

学びの特色

1 高い専門性とリーダーシップを備えた人材を養成する

本学科の軸となる4つの柱「地域文化系」「異文化コミュニケーション系」「現代文化システム系」「言語情報コミュニケーション系」、それぞれに対して教育プログラムを設定しています。各自の興味や将来の進路などの目的に応じて、教育プログラムの枠を超えた柔軟な授業の選択が可能です。

2 多彩な学際的カリキュラムを通して、専門的能力を身に付ける

それぞれの専門的能力を、受入留学生を交えた国際共修授業はもとより、多彩な語学教育、長期の交換留学制度、国内外でのフィールドリサーチやインターンシップ等、多様なアクティブ・ラーニングを利用して修得できるカリキュラムを用意しています。さらに、3年後期から4年前期にかけて「グローバル文化特別演習」において指導教員のきめ細やかな指導により学修を深め、4年次に学修の総仕上げとして「卒業研究」を行い、卒業論文を作成します。

3 「留学したい」を後押しする、長期留学をサポートするカリキュラム

選抜を経て協定大学に留学する交換留学プログラムでは、留学先で修得した授業の単位は神戸大学の単位として認定することができます。また、正規の留学中も、神戸大学に在学していますので、これらを上手く利用すれば、1年間の長期留学を含めても4年間で卒業することが可能です。

国境を越えたコミュニケーションを推進できるリーダーシップを備えた人材を養成する

地域文化系プログラム

21世紀の世界に存在する多様な文化や価値観を地域別に研究します。また、そうした地域の文化や価値観がどのように形成され、持続・変容してきたのかを、さまざまな学問アプローチから捉え、比較的・相対的な視点から地域文化を理解する力を身に付けます。

[学問領域]
日本、ヨーロッパ、ロシア・スラブ、北アメリカ、中・南アメリカ、東アジア、東南アジア、オセアニアなどの地域研究

[卒業論文の例]
◎『申報』広告欄にみる纏足と放足
◎台湾における性的マイノリティ
◎マレーシアの「ルック・イースト政策」における日本留学の考察
◎若者に対する政治教育のアプローチ──ドイツと日本における模擬選挙プログラムの事例分析を通して
◎タイ人シェフの職業生活世界について──神戸・三宮で働くタイ人シェフを例に
◎ポーランド社会における反ユダヤ主義をめぐる議論──映画Pokłosieが与えた余波
◎水洗トイレのイノベーションと日本人の排泄観

異文化コミュニケーション系プログラム

社会経済のグローバル化に伴い、異文化間相互の分裂と統合が、国内および国境を越えて拡大しているという世界の動きを踏まえ、異文化間コミュニケーションのあり方を明らかにし、異なる文化が対話可能となるような方法を考察する能力を身に付けます。

[学問領域]
文化人類学、比較政治、国際関係論、科学史、比較文学

[卒業論文の例]
◎パレスチナ刺繍の伝統と変遷──刺繍からまなざすパレスチナ問題
◎現代アメリカにおける政治的分極化の要因──党派性、アイデンティティ、ソーシャルメディアから見るメカニズム
◎イギリス医師会の政治的主張と活動2000年以降のNHS政策を通して
◎「不可視化」される人々──日朝「ダブル」のライフ・ストーリーを通して
◎電力システム改革の政治過程分析──震災以降の日本のエネルギー政策の検証
◎若者の自立支援政策の意義とその拡充に至る政治的条件について
◎東アジア地域主義を巡る国際関係──日本と中国の東アジア構想
◎ドイツの国籍法改正におけるネーション理解の変化について

現代文化システム系プログラム

近代的な制度や思考の枠組みが根底から揺らぐなかで、グローバルな規模で拡がる今日的な問題群に焦点を当て、現代世界を動かしている社会・文化のシステムを多角的に分析し、現代という時代について批判的に洞察する力を身につけます。

[学問領域]
社会思想史、社会学（ジェンダー、メディア、移民・難民、貧困）、法哲学、美学、表象文化論、美術史、舞台芸術論、芸術政策

[卒業論文の例]
◎ハンナ・アーレントの行為論──「複数性」の果たす役割をめぐって
◎M・フーコーにおける（新）自由主義批判──「生政治」概念をてがかりに
◎生成と秩序──カール・シュミットの近代批判・再考
◎「ハイジ」をめぐるアダプテーション──高畑勲監督アニメ『アルプスの少女ハイジ』の位置づけ
◎トーマス・ルフの作品における写真表現の可能性をめぐって
◎NGOの協働と構造的弱点──現場の語りから考える日本とフィリピン貧困地域のNGOが直面している困難
◎中国系ニューカマーの子どもと日本の学校教育──神戸市中央区を例に
◎スウェーデン福祉国家における極右政党の大躍進と移民問題

言語情報コミュニケーション系プログラム

言語・感性によるコミュニケーションの可能性と問題点を発見し解析する能力や、ICTを用いた多彩な情報の収集・分析・発信に関わる能力を育成し、これらの研究成果をグローバルな課題解決に活用する能力を身に付けます。

[学問領域]
言語学、日本語教育、外国語教育、認知心理学、認知神経科学、非言語コミュニケーション、ITコミュニケーション、ソーシャルコンピューティング、情報科学、コミュニケーションデザイン

[卒業論文の例]
◎インドネシア文学の翻訳比較研究──『Laskar Pelangi』を例に
◎二者間相互作用におけるシンクロニーに話者特性が及ぼす影響
◎課題非関連な恐怖刺激への注意捕捉
◎演劇評価尺度の構築──Twitterによる語彙収集および印象評定実験による妥当性・信頼性の検証
◎集合知を利用したレシピの食感テクスチャー表現の研究
◎宝塚はジェンダーロールを誇張するか──『ロミオとジュリエット』の日本語訳とその舞台化
◎国際系学部1年生の英語学習動機づけ
◎スポーツ選手の第二言語習得に見る学習ストラテジーについて

Department of Human Development and Community

発達コミュニティ学科

人間の多様な発達と、その発達を支えるコミュニティ（多様な人々が協働する社会）を実現するために必要な能力を身に付けた人材の養成を目指します。この目的を踏まえ、人間の心理的発達や身体的発達、表現や行動の機能発達など、人間の生涯全体に関わる課題解決を行うために必要な基礎的な専門教育を行う「発達基礎」、人間の多様な発達の相互関係に着目し、グローバル社会と個人をつなぐコミュニティに関する理論の構築と実践的な課題解決を行うために必要な専門教育を行う「コミュニティ形成」という2本の柱を設定します。

予想される進路

卒業後の進路として、自治体や企業における組織・人事戦略コンサルタント、家庭裁判所調査官、地域コミュニティ創生支援事業・人材育成事業の指導者、行政や自治体の専門職、健康関連企業での専門職、国際連合機関（ユネスコ、世界保健機関等）、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

学びの特色

1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて人間の発達とコミュニティについての幅広い知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路などに応じて、5つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を選択して受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 国内外の海外研修、フィールドワークを通じて実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講により高度な専門性を身に付けると同時に、国内外における活動を通じて実践的な問題解決能力を鍛えます。現場実践によって醸成した問題意識をより明確な課題設定へとつなげ、その解決に必要な具体的な手法を体系的・段階的に学びます。

人間の発達とそれを支えるコミュニティの実現に取り組む人材を養成する

社会エンパワメントプログラム

社会の様々な局面で生じる課題に人々がコミットしてゆくための方法、対人支援やコミュニティ支援に関する幅広い知識や技術を学び、あらゆる人の多様なエンパワメントを通してグローカルな社会課題が解決される専門的方法論を身につけます。

[学問領域]
ESD論、社会教育・生涯学習論、障害者共生支援論、ジェンダー論、福祉教育・ボランティア学習論、臨床哲学、自然共生社会論、多文化学習論

[卒業論文の例]
◎生きづらさに着目した日本におけるギフテッド定義の再検討──当事者研究を介して
◎若者の転出者における空き家に対する意識と地元への愛着に関する研究──兵庫県佐用町を事例にして
◎高齢化コミュニティにおける音楽の活用──歌唱がもたらす作用に着目して
◎大学教育における協働学習の意味と課題──多文化交流社会の実現に向けて
◎「授業における子どもの学び」を捉える教師の視点と葛藤の意味

心の探究プログラム

人々の心の発達の諸相における課題を発見しその解決へと導くために、人の心とその発達を適切な方法で理解・測定する基礎的能力、現代社会の多様な支援ニーズへの対応方法についての実践的な専門的能力を身につけます。

[学問領域]
臨床心理学、芸術療法、スクールカウンセリング、臨床心理検査法、発達臨床心理学、生涯発達心理学、睡眠心理学、教育心理学、人格心理学、健康心理学、障害者心理学

[卒業論文の例]
◎認知のゆがみが援助要請の利益・コストの予期に与える影響の検討
◎就職決定後の就職不安と仮想的有能感の関連について
◎報酬分配と責任分配における分配原理の違いが対人魅力に及ぼす効果
◎ライフイベント経験におけるレジリエンスとコーピングの関係
◎マジック状況における言葉によるミスディレクションの効果の検討

アクティブライフプログラム

人々が健康で活動的なライフスタイルを実現するために、心身の健康やエイジング、運動行動、スポーツ活動などについて原理や方法を理解・分析する基礎的能力や創造的・実践的な専門的能力を身につけます。

[学問領域]
生活習慣と心身の健康、社会心理学、社会老年学、加齢の健康行動科学、加齢の認知心理学、加齢の身体運動科学、応用生理学、運動生理学、運動生化学、スポーツ技術論、運動心理学、スポーツ社会学、体育・スポーツ史、応用身体運動科学、バイオメカニクス

[卒業論文の例]
◎成長期における食行動と心身の健康との関連性
◎高齢者における歩行過渡期の歩行特性
──移動する床面からの歩行に着目して
◎認知バイアスと感情調整に加齢が及ぼす影響
◎社会的ネットワークが高齢者の運動習慣に及ぼす影響
◎新しい男性役割と結婚・恋愛に関する調査研究
◎季節変化がヒトの発汗機能に及ぼす影響
◎感染症流行下におけるスポーツイベントマネジメント時系列分析

ミュージックコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、音楽の発信と受信について多面的に理解・探究する総合的能力、音楽の創造的実践的な専門能力を身に付けます。

[学問領域]
音楽文化史、民族音楽学、即興など演奏法・演奏論、音楽美学、音楽教育、音楽社会学、音楽理論、音楽音響制作、音楽表現学

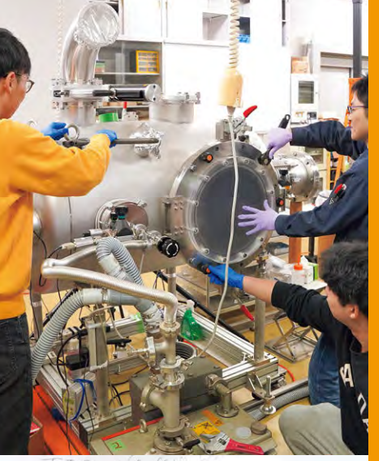
[卒業論文の例]
◎ペルシャ語圏の写本装飾タズヒーブ──イランにおける現代的展開
◎日本におけるサムルノリ
──在日コリアンのアイデンティティから多文化共生への道
◎浅草オペラの地域受容──上演記録を通じて
◎アニメーションにおける「音と画の対位法」の効果
◎『ミカド』上演演出の変容を探る──「イエローフェイス」問題の考察から
◎電子オルガンのための協奏曲の可能性──GXコンチェルトを分析して

アートコミュニケーションプログラム

人々の文化的で豊かな生活のため、芸術の実践と交流によって社会における多様な人々をつなぐ場を構築することを目指し、文化・芸術について多面的に理解・探究する総合的能力、創造的実践的な専門能力を身に付けます。

[学問領域]
舞踊学、絵画表現、ファッション文化論、社会情報学、
認知科学、パフォーマンス科学、認知身体性科学

[卒業論文の例]
◎舞踊表現における共有感に関する考察
◎神戸のファッション文化の発展
──紳士服からニュートラ、神戸系ファッションまで
◎振付創作プロセスにおけるコンテンポラリーダンス作品の変容
──環境との関係に着目して
◎音楽聴取と想起される図形イメージの関連性について
──音楽の音色と調性を中心に



Department of Environment and Sustainability

環境共生学科

人間と環境の調和に根ざす持続可能なグローバル共生社会の実現を目指し、身近な環境から地球環境に至る幅広い環境について、様々な問題を発見・立論し、解決に導くために必要な能力を有し、さらに、国際的な視野から課題に取り組む行動力を身に付けた人材を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、環境の成り立ちを解析し、課題を発見・立論するために必要な基礎科学の専門教育を行う「環境基礎科学」、環境改善のための技術・システム、政府・自治体の政策、教育と市民参加、企業・NPO・NGO等の活動に関する専門教育を行う「環境形成科学」という2本の柱を設定しています。

予想される進路

卒業後の進路として、環境保全、都市開発、街づくり、農村計画、防災政策などに携わる国家・地方公務員、インフラ、エネルギー、ディベロッパー、各種メーカーなどの企業、NPO、NGO、中学校・高等学校教員、大学院進学等が予想されます。

得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）

学びの特色

1 広い基礎知識を学び、学びの方向を定める

1年次は、概論等の講義を通じて環境共生学についての幅広い基礎知識を得るとともに、専門的知識を学んでいく上で基礎となる科目を受講します。多くの科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 教育プログラムを通して、高い専門性を身に付ける

2年次には、各自の関心や将来の進路など目的に応じて、4つの教育プログラムの中から1つを軸として選択します。各教育プログラムで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 海外研修、フィールドワークを通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える

専門科目の受講に加え、国内外でのフィールドワーク、多彩な調査、最先端の科学実験などにより高度な専門性を身に付けると同時に、多様な環境改善プロジェクトやNPO・NGO等の環境関連活動への参加を通じて、実践的な問題解決能力を培います。

グローバル共生社会を支える環境を創り出す文理融合型人材を養成する

環境自然科学プログラム

地球規模の環境問題を引き起こす多様な要因や問題が顕在化するまでの複雑なメカニズムを解明し、解決策を提案するために、自然の成り立ちや法則の理解を基礎として、フィールドワーク・科学実験・データ解析などの調査・分析・解析手法について学びます。

[学問領域]
環境物理学、物質環境、地球環境、生物環境

[卒業論文の例]
◎植物の3次元高感度イメージングに関する研究
◎農業生態系における生物多様性の維持機構の解明
◎マヤサンオサムシの地理的変異と生殖隔離
◎環境DNA分析を用いた希少生物の分布調査
◎CO_2固定酵素ルビスコの機能解析と光合成改良への応用研究
◎あらゆるウイルスと結合する人工核酸の合成
◎振動分光法を用いた生分解性高分子の構造と物性に関する研究
◎最終氷期以降の北太平洋における海洋環境変遷の研究
◎地球惑星環境における氷物質の物性
◎自己駆動粒子の運動にみられる分岐構造
◎スズメバチの駆除と食利用文化の行動生態学的研究
◎天体衝突による惑星表層環境の撹拌過程についての実験的研究

環境数理科学プログラム

環境に潜む様々な現象を数理的な手法で解明し、人間と環境のよい共生関係を論理的かつ緻密にデザインするために、数理科学に関する基礎知識を身に付け、諸問題に対する新しい分析方法について学びます。

[学問領域]
数理モデル、現象解析、数理統計、計算機科学

[卒業論文の例]
◎連続ドラマ視聴率の解析
◎保険数理における信頼性理論
◎微分方程式モデルによる社会事象の分析
◎インフルエンザによる学級閉鎖の基準制定の影響
◎倒産企業の統計的分析
◎スマートデバイスに対応した数学アプリケーションの開発
◎チューリングマシンと計算量のクラスについて
◎高等学校数学科におけるICTの活用

生活共生科学プログラム

日常生活における人と人、人と環境のよりよい共生関係をデザインするために、フィールドワーク、各種調査、科学実験の基礎的な技能を身に付け、幅広い問題を発見・立論するとともに、課題解決に向け、実践的な技術開発、環境設計、政策立案について学びます。

[学問領域]
衣環境論、食環境論、アプライアンス環境論、ライフスタイル論
環境経済学、地域環境資源論、環境保健学、緑地環境論、都市生態論

[卒業論文の例]
◎布の性質とパターンの異なる紳士用スーツの圧迫感に関する研究
◎織物の触感評価に関する脳波解析についての研究
◎介護施設における圧力センサを用いた嚥下動作の検出
◎人間計測に応用可能な導電糸を用いた圧力センサの開発
◎若年層の消費行動が環境に与える影響の分析
◎人間の心理的変動と環境の評価及び行動に関する研究
◎都市の街路樹景観における緑の量と質が歩行者に与える印象
◎マルチエージェントシミュレーションを利用した介護施設における新型コロナウイルスに対する感染対策の検討
◎種々の分子調理法で調製したヨーグルトの物理化学的特性と嗜好性
◎メガシティの居住環境における社会生態系に着目した国際比較研究

社会共生科学プログラム

文化・政治・経済・社会・地域等における様々な対立を乗り越えるために、グローバル社会における共生のあるべき姿を考えます。身近な環境からグローバルな環境に至る様々な課題を発見し、その原因と解決について学びます。国内外でのフィールド調査・文献調査を通して、実践力を身に付けます。

[学問領域]
社会環境思想、政治経済環境史、社会保障、国際関係、途上国開発、
地域社会、地域研究、環境地理学

[卒業論文の例]
◎オーストラリア先住民文化と創造の可能性
◎企業のSDGs活動──持続可能な社会に向けて企業ができること
◎学びにおける「欲望」について──自分の学びを見つけるために
◎電気自動車は本当に地球に優しいのか──環境、経済を含めた総合的考察
◎ネットを介した仮想的なコミュニケーションが拓く可能性
◎日本人と定住外国人の関係性──共生概念の再検討
◎日本の児童文学における障害者表象
◎インフラ発展による開発途上国の発展──回廊開発アプローチの正当性
◎兵庫県丹波篠山市における黒枝豆栽培
◎河内木綿の盛衰とその多様性──中河内地域の団体に着目して

Department of Child Education

子ども教育学科

次世代育成を通したグローバル共生社会の実現を目指し、グローバル社会に関わる幅広い視野を持ちながら、子どもと学校が抱える課題を多面的に認識し、実践的に解決していく能力を身に付けた初等教育教員等を養成します。この目的を踏まえ、本学科は、初等教育を構成する「学校教育学」と「乳幼児教育学」の2つのコースを設け、世界と日本の学校教育、国際文化理解教育など、グローバル共生社会の実現に向けた教育の現状と課題について理解を深めた後、コースごとの体系的な教育研究を行っていきます。

予想される進路

卒業後の進路として、小学校教員、幼稚園教員、特別支援学校教員、公務員（教育行政職）、（実務経験を経た後）教育に関わる国際機関職員、教育関連企業、大学院進学等が予想されます。

取得可能な学位：学士（学術）（Bachelor of Arts）
学士（教育学）（Bachelor of Education）

学びの特色

1 幅広い基礎知識を得て方向性を選択する

1年次は、概論等の講義を通じ、未来のグローバル共生社会を創り出す子どもの教育について原理的諸側面と教科的諸側面を中心に、多角的な知見と探究方法論を修得し、基礎的な能力を身に付けます。同時に、幅広い専門科目の中から自らの関心に沿った履修を進め、学ぶ専門性と方向性を見定めていきます。

2 コースごとの学修を通して、高い専門性を身に付ける

将来の進路など目的に応じて、2つのコースから1つのコースを選択します。それぞれのコースで開講される専門科目を受講し、より高度な専門性を身に付けていきます。

3 理論と実践の往還を通して、エキスパートとしての実践力・応用力を鍛える

大学での専門科目の受講によって身に付けた高度な専門性を、附属学校園を含む国内外の学校現場での教育実習やインターンシップの経験と連関させ、初等教育教員としての実践的指導力、子どもの教育を学問的に探究するための研究能力を鍛えます。

現代社会の文化的多様性を尊重した子ども教育に取り組む人材を養成する

学校教育学コース

主に教育学、教科内容・指導論、心理学の専門性に基づいて、義務教育の基盤である小学校を中心とした教育理念、制度、教育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、インクルーシブ教育の観点から、障害のある子どもに対する特別支援教育に関する教育研究を行います。

[学問領域]
学校教育学、教育内容・指導論、特別支援教育学、障害児支援学

[卒業論文の例]
◎教員養成課程の学生の進路選択：教職志望意識の変容過程と進路選択要因について
◎教師の民間企業就職経験が教師の職務の遂行に与える影響についての検討
◎障害児の教育・支援現場におけるAACの普及：放課後等デイサービスでの実践を通した「機会のバリア」の解消
◎「インクルーシブ教育」を実現するための教育目標・教育評価のあり方
——児童指導要録の歴史的検討を通して
◎明石女子師範学校附属小学校の子ども研究と「生活単位のカリキュラム」
——西口槌太郎の実践に着目して
◎科学技術の社会問題としてのゲノム編集を題材とした小学生向け教育プログラムのための教材の評価
◎数の合成・分解における小学校第1学年の 児童が抱える学習の困難性について——「サビタイジング」・「サビタイジングを基盤とする認識」の発達を踏まえて
◎政策の策定と提言を体験させることによって政治への主体的参加を促す主権者教育の授業 ——「政党旗揚げゲーム」の開発・評価を通じて
◎理科探究学習における知的障害特別支援学級在籍児の授業参加
——一斉授業と比較して

乳幼児教育学コース

主に教育学、保育内容・指導論、心理学の専門性に基づき、生涯にわたる人格形成の基盤である乳幼児期を中心とした教育理念、制度、保育内容と方法に関する教育研究を行います。あわせて、幼小連携教育の観点から、小学校教育の内容と方法等に関する教育研究を行います。

[学問領域]
乳幼児教育学、保育内容・指導論、乳幼児心理学

[卒業論文の例]
◎英訳された日本語絵本に関する研究——林明子作品を事例として
◎保育者の着装規範をめぐる意識について——保育者の語りの分析から
◎神戸市立小磯記念美術館における子供のためのワークショップの特色と意義——子供のためのワークショップの変遷を辿って
◎兵庫県の公立園における異年齢保育の実態調査
◎未就園児の保護者に向けた園に関わる情報提供支援
——園のHPの分析を中心に
◎新任保育士の児童虐待早期発見に至る要因に関する研究
◎子どもの描画活動の「自分なりの表現」について
——保育所における子どもの姿から
◎ 集団保育の片付け場面における保育者の対応と子どもの反応
——4歳児クラスでの観察を通して

カリキュラム Curriculum

主な授業科目を掲載しています。

グローバル文化学科

科目	教養	1年次	2年次	3年次	4年次
		基盤系　人文系　社会系　自然系　総合系　外国語系　健康・スポーツ科学系			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）		
	基礎・発展科目	［基礎科目］ 初年次セミナー 国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンパワメント論 グローバル共生社会論 ［発展科目］ Test Preparation 国際コミュニケーション演習A、B	［発展科目］ フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	［発展科目］ 外国語実習A、B インターンシップ実習A、B フィールドワーク実習A、B	
	共通科目	情報リテラシー演習1、2 Academic Skills 情報科学概論 地域文化概論 異文化コミュニケーション概論 現代文化システム概論 言語情報コミュニケーション概論	Lectures on Social Dynamics Lectures on Cultural Formations Lectures on Global Communication	Study on Global Cultures English Presentation Skills English for Professional Purposes World Englishes	
学科専門科目	コア・展開科目	［コア科目］ 日本社会文化論 東アジア政治社会論 環大西洋文化論 ［展開科目］ 地域文化論基礎演習Ⅰ	プログラム選択 地域文化系プログラム ［展開科目］ 日本思想文化論、日本文化交流論 日本メディア文化論 日本歴史文化論 オセアニア社会文化論 東アジア社会文化論 東南アジア社会文化論 東南アジア政治文化論 アメリカ文化論 イギリス社会文化論 ヨーロッパ社会文化論 越境文学論 ［展開科目］ 福祉社会環境史 地域社会共生論 地域文化論基礎演習Ⅱ 地域文化論発展演習Ⅰ	［展開科目］ メディア論 社会調査法A、B 地域文化論発展演習Ⅱ グローバル文化特別演習Ⅰ	［展開科目］ グローバル文化特別演習Ⅱ 卒業研究
		［コア科目］ 文化人類学 越境文化形成論 国際関係論 ［展開科目］ 異文化コミュニケーション論 基礎演習Ⅰ	異文化コミュニケーション系プログラム ［展開科目］ 現代社会人類学 現代民族誌学 比較民族学 文化混交論 科学技術文明論 越境文化交流論 越境社会文化論 多文化政治社会論 比較政策論 比較政治社会論 平和構築論 ［展開科目］ 環境経済学 地域社会共生論 異文化コミュニケーション論基礎演習Ⅱ 異文化コミュニケーション論発展演習Ⅰ 越境文化交流論 越境社会共生論	［展開科目］ 社会調査法A、B 異文化コミュニケーション論発展演習Ⅱ グローバル文化特別演習Ⅰ	［展開科目］ グローバル文化特別演習Ⅱ 卒業研究
		［コア科目］ 現代社会理論 芸術環境創造論 近現代思想文化論 ［展開科目］ 現代文化システム論基礎演習Ⅰ	現代文化システム系プログラム ［展開科目］ 近現代政治思想論 グローバル正義論 ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 現代規範論 芸術文化表象論 視覚文化論 文化環境形成論 ［展開科目］ コミュニティと表象 シアトリカル・アート論 コミュニティ・ジェンダー論 環境経済学 生活空間計画論 社会環境思想史 福祉社会環境史 現代文化システム論基礎演習Ⅱ 現代文化システム論発展演習Ⅰ 近現代社会思想論 近現代倫理思想論 近現代科学思想論 近現代芸術理論	［展開科目］ メディア論 社会調査法A、B 現代文化システム論発展演習Ⅱ グローバル文化特別演習Ⅰ	［展開科目］ グローバル文化特別演習Ⅱ 卒業研究
		［コア科目］ 言語構造論 非言語コミュニケーション論 現代IT入門 ［展開科目］ 心理学の基礎と歩み（心理学概論） 言語情報コミュニケーション論 基礎演習Ⅰ	言語情報コミュニケーション系プログラム ［展開科目］ 第二言語習得論 言語機能論 コミュニケーション表現論 言語社会論 音声コミュニケーション論 コミュニケーション構造論 コミュニケーション比較論 認知コミュニケーション論（知覚・認知心理学） ITコミュニケーションデザイン 社会システム科学 データマネージメント 統計情報処理 知覚と行為（知覚・認知心理学） 生活空間計画論 ［展開科目］ 言語情報コミュニケーション論基礎演習Ⅱ 言語情報コミュニケーション論発展演習Ⅰ	［展開科目］ 言語情報コミュニケーション論発展演習Ⅱ グローバル文化特別演習Ⅰ	［展開科目］ グローバル文化特別演習Ⅱ 卒業研究

（注）2年次後期の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

発達コミュニティ学科

科目	教養	1年次	2年次	3年次	4年次
		基盤系　人文系　社会系　自然系　総合系　外国語系　健康・スポーツ科学系			
学部共通科目	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）		
	基礎・発展科目	［基礎科目］ 初年次セミナー／国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論／ソーシャルエンパワメント論 グローバル共生社会論 ［発展科目］ Test Preparation 国際コミュニケーション演習A、B	［発展科目］ フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	［発展科目］ 外国語実習A、B インターンシップ実習A、B フィールドワーク実習A、B	
	共通	発達コミュニティ概論 地域社会学		発達コミュニティ演習1	発達コミュニティ 演習2
学科専門科目	コア・展開科目	［コア科目］ 社会教育計画論 ［展開科目］ 非言語コミュニケーション論	プログラム選択 社会エンパワメントプログラム ［コア科目］ 障害共生教育論／コミュニティ・ジェンダー論 健康心理学（健康・医療心理学）／スポーツプロモーション論 ファッション文化論／身体表現論／生涯学習論 ［展開科目］ 青年心理学 家族の発達と病理1（社会・集団・家族心理学1） 家族の発達と病理2（社会・集団・家族心理学2） 加齢の社会心理学（社会・集団・家族心理学） 精神生理学／ジェンダー社会文化論 メディア社会文化論 コミュニティ環境の心理学	［コア科目］ メディア論 ［展開科目］ 社会調査法A、B 社会教育課題研究（障害共生教育論） 社会教育課題研究（ジェンダー問題学習論） 社会教育課題研究（自然共生地域支援論） 社会教育課題研究（ボランティア学習論） ライフコースの心理学（発達心理学） 社会教育実践論	［展開科目］ 心理学的援助支援 （心理実習） 卒業研究
		［コア科目］ 心理学の基礎と歩み （心理学概論） からだの構造と機能 （人体の構造と機能及び疾病） 加齢の認知心理学 （知覚・認知心理学） ［展開科目］ 発達心理学（幼・小） 心の発達と教育1 （学習・言語心理学1） 心の発達と教育2 （教育・学校心理学1） 非言語コミュニケーション論	心の探究プログラム ［コア科目］ 健康心理学（健康・医療心理学）／心理学調査法（心理学研究法） 知覚と行為（知覚・認知心理学） ［展開科目］ 児童の発達と学習／青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学（神経・生理心理学）／臨床心理学（臨床心理学概論） 心理面接論（心理学的支援法）／深層心理学 家族の発達と病理1（社会・集団・家族心理学1） 家族の発達と病理2（社会・集団・家族心理学2） 心理学実験法／心理学観察法 発達アセスメント（心理的アセスメント）／心理学統計法A、B 障害児発達学（障害者・障害児心理学）／臨床発達支援学1、2 加齢の社会心理学（社会・集団・家族心理学） 認知コミュニケーション論（知覚・認知心理学）／ジェンダー社会文化論	［コア科目］ 心理学研究実践A／心理学研究実践B（心理学研究法） ［展開科目］ 社会教育課題研究（ジェンダー問題学習論） 心の発達と教育3（教育・学校心理学2） 初等学校教育相談 ライフコースの心理学（発達心理学） 感情・人格心理学／中等学校教育相談 心理検査法（心理的アセスメント） 投影法心理検査／臨床心理学演習（心理演習） 公認心理師の職責／福祉心理学 司法・犯罪心理学／産業・組織心理学 関係行政論	［展開科目］ 心理学的援助支援 （心理実習） 卒業研究
		［コア科目］ アクティブライフ概論 からだの構造と機能 （人体の構造と機能及び疾病） 加齢の認知心理学 （知覚・認知心理学） ［展開科目］ 心の発達と教育1（学習・言語心理学1） 心の発達と教育2（教育・学校心理学1） 健康運動科学 非言語コミュニケーション論	アクティブライフプログラム ［コア科目］ 障害共生教育論／健康心理学（健康・医療心理学）／運動心理学 スポーツプロモーション論／身体運動の文化史 ［展開科目］ 青年心理学／社会性の発達心理学／生理心理学（神経・生理心理学） 心理学統計法A、B／身体機能の適応／加齢の健康行動科学 人の動きの計測と制御／身体運動のダイナミクス 加齢の社会心理学（社会・集団・家族心理学）／身体マネジメント研究 環境保健学／応用身体運動科学 認知コミュニケーション論（知覚・認知心理学） コンテンポラリーダンス／コミュニティ環境の心理学 メディア社会文化論	［展開科目］ 社会調査法A、B 社会教育課題研究（障害共生教育論） 社会教育課題研究（ジェンダー問題学習論） 中等学校教育相談 アクティブライフ演習 身体運動科学実験	卒業研究
		［コア科目］ 心理学の基礎と歩み（心理学概論） 音楽文化史 民族音楽学 社会教育計画論 ［展開科目］ 心の発達と教育1（学習・言語心理学1） 心の発達と教育2（教育・学校心理学1） 非言語コミュニケーション論	ミュージックコミュニケーションプログラム ［コア科目］ 障害共生教育論／サウンドデザイン 日本文化交流論／身体表現論 ［展開科目］ 児童の発達と学習／青年心理学／社会性の発達心理学 生理心理学（神経・生理心理学）／臨床心理学（臨床心理学概論） 身体機能の適応／声の表現／シアトリカル・アート論 民族音楽演奏演習1、2／民族音楽演奏特別演習／音楽集団活動論1、2 器楽アンサンブル1、2／ミュージックセオリー&アナリシス 声楽表現演習／ピアノ演奏演習／声楽アンサンブル1、2 芸術文化表象論／コンテンポラリーダンス	［コア科目］ 音楽作品研究 ［展開科目］ 社会教育課題研究（ジェンダー問題学習論） 社会教育課題研究（ボランティア学習論） 中等学校教育相談 声楽伴奏表現演習 邦楽歌唱法 邦楽器演奏法 芸術表現演習	卒業研究
		［コア科目］ 心理学の基礎と歩み（心理学概論） 創造の発想とプロセスA、B ［展開科目］ 心の発達と教育1（学習・言語心理学1） 心の発達と教育2（教育・学校心理学1） 非言語コミュニケーション論	アートコミュニケーションプログラム ［コア科目］ 知覚と行為（知覚・認知心理学）／身体表現論／表現の科学 空間造形論／絵画アート論／ファッション文化論／身体・創造・創発 ［展開科目］ 空間アート実践／絵画アート実践 視覚文化論／芸術文化表象論／メディア社会文化論 グラフィックサイエンス／コンテンポラリーダンス	［コア科目］ メディア論 ［展開科目］ 社会教育課題研究（ジェンダー問題学習論） 社会教育課題研究（ボランティア学習論） 芸術表現演習 芸術批評演習 幾何デザインと視覚伝達 表現の科学演習 ダンスと科学	［展開科目］ 映像・メディア論 演習 卒業研究

（注）2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

環境共生学科

科目	教養	1年次	2年次	3年次	4年次
学部共通科目		基盤系　人文系　社会系　自然系　総合系　外国語系　健康・スポーツ科学系			
	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）		
	基礎・発展科目	［基礎科目］ 初年次セミナー 国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンパワメント論 グローバル共生社会論 ［発展科目］ Test Preparation 国際コミュニケーション演習A、B	［発展科目］ フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	［発展科目］ 外国語実習A、B インターンシップ実習A、B フィールドワーク実習A、B	
	共通	環境共生学概論1、2、3 地球環境学	途上国農村地域開発論 数理的問題解決法		
学科専門科目	コア・展開科目	［共通専門基礎科目］ 物理学入門 力学基礎1、2 電磁気学基礎1、2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1、2 基礎有機化学1、2 生物学概論A1、A2 生物学各論A1、A2 生物学各論C1、C2 基礎地学1、2 線形代数1、2、3、4 微分積分1、2、3、4 数理統計1、2	［コア科目］ 環境物理学A、B 環境物質科学A、B 環境生命科学A、B 環境地球科学A、B 数理科学基礎 数理科学入門（統計系） 数理科学入門（解析系） 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 環境基礎科学実験A（主に地学） 環境基礎科学実験B（主に生物学） 環境基礎科学実験C（主に化学） 市民科学教育論 ［展開科目］ 地球環境物理学 生物多様性科学 環境資源植物科学 からだの構造と機能 （人体の構造と機能及び疾病） 環境数値解析 野外生物学実習 ［共通専門基礎科目］ 物理学実験	［展開科目］ 環境基礎物理学A、B 地球環境変動史 生態学 環境生理学 分子生物学 環境生命化学 ［展開科目］ 環境応用科学実験B （生物環境） 環境応用科学実験C （物質環境） 環境応用科学実験D （環境物理） 環境基礎科学演習1、2	［展開科目］ 環境物理学特別演習1 環境物理学特別演習2 卒業研究
		［共通専門基礎科目］ 物理学入門 力学基礎1、2 電磁気学基礎1、2 連続体力学基礎 熱力学基礎 基礎無機化学1、2 基礎有機化学1、2 生物学概論A1、A2 生物学各論A1、A2 生物学各論C1、C2 基礎地学1、2 線形代数1、2、3、4 微分積分1、2、3、4 数理統計1、2	［コア科目］ 数理科学基礎 数理科学入門（統計系） 数理科学入門（代数系） 数理科学入門（幾何系） 数理科学入門（解析系） 計算機科学入門 数理モデルプログラミング 環境物理学A、B 環境物質科学A、B 環境生命科学A、B 環境地球科学A、B 環境社会学 環境共生史 ［共通基礎科目］ 量子力学基礎 相対論基礎 ［展開科目］ 環境数値解析	［展開科目］ 計算代数A、B 環境モデル解析A、B かたちの数理A、B 数理科学研究A、B データ解析A、B 環境基礎科学演習1、2	卒業研究
		［共通専門基礎科目］ 力学基礎1、2 熱力学基礎 基礎有機化学1、2 生物学概論A1、A2 線形代数入門1、2 微分積分入門1、2 数理統計1、2 法律学 経済学 政治学 人文地理学 社会学 倫理学	［コア科目］ 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A、B こども環境論 環境社会学 グローバル都市地域論 環境共生史 ［展開科目］ 衣環境論A 衣環境論B 食環境論A、B アプライアンス環境論 スマート ライフサイエンス 環境政策論 環境システム設計論 地域景観生態論 都市地域居住環境論 環境保健学 環境・健康リスク論 社会保障論 地域空間システム論 地域社会共生論 身体機能の適応 ［展開科目］ 家族の発達と病理1 （社会・集団・家族心理学1） 家族の発達と病理2 （社会・集団・家族心理学2） 加齢の社会心理学 （社会・集団・家族心理学） ファッション文化論	［展開科目］ 環境形成科学実験A、B 環境形成科学実習 生活環境調査法 環境形成科学実験実習	卒業研究
		［共通専門基礎科目］ 法律学 経済学 政治学 人文地理学 外国史 社会学 日本史 倫理学 ［展開科目］ 文化人類学 国際関係論 社会教育計画論	［コア科目］ 環境経済学 地域環境資源論 生活空間計画論 緑地環境論 ライフスタイル論A、B こども環境論 環境社会学 グローバル都市地域論 社会環境思想史 環境共生史 グローバル開発論 ［展開科目］ 環境政策論 地域景観生態論 環境法 グローバル平和論 福祉社会環境史 グローバル政治経済史 地域空間システム論 社会文化環境論 地域社会共生論 地域復興政策論 ［展開科目］ フィールドワーク実習 近現代政治思想論 ジェンダー社会文化論 グローバル正義論 社会共生史 社会保障論 生涯学習論	［展開科目］ 環境形成科学演習1A、1B、1C、2A、2B、2C 社会教育実践論	卒業研究

（注）2年次の始めにプログラムを1つ選択します。1年次には2年次以降選択するプログラムを想定して科目を履修します。

子ども教育学科

科目	教養	1年次	2年次	3年次	4年次
学部共通科目		基盤系　人文系　社会系　自然系　総合系　外国語系　健康・スポーツ科学系			
	GSP	グローバルイシュー概論	グローバルイシュー演習 GSP（海外実施GSコース、国内実施GSコース）		
	基礎・発展科目	［基礎科目］ 初年次セミナー 国際開発援助論（JICA） フィールドワーク基礎論 異文化間教育論 ソーシャルエンパワメント論 グローバル共生社会論 ［発展科目］ Test Preparation 国際コミュニケーション演習A、B	［発展科目］ フィールドワーク方法論 Academic Communication（英）（独）（仏） Academic Writing（英）（独）（仏） 日本語コミュニケーション1、2 情報発信演習1、2 プログラミング基礎演習1、2 Cultures and Societies in Japan A、B	［発展科目］ 外国語実習A、B インターンシップ実習A、B フィールドワーク実習A、B	
	共通	子ども教育学概論 教育原理（世界と日本の学校教育） 保育原理（世界と日本の乳幼児教育）		子ども教育学演習1、2	子ども教育学演習3、4
学科専門科目	コア・展開科目	［コア科目］ 教職論（幼・小） 発達心理学（幼・小） 教育経営学（幼・小） 初等算数論 初等図工論 乳幼児心理学 子どもの食と栄養 乳幼児と健康 乳幼児と環境 乳幼児と言葉 乳幼児と表現（音楽） 乳幼児と表現（造形） 乳幼児と人間関係 ［展開科目］ 特別支援教育入門（幼・小） 社会的養護 社会的養護内容演習 乳児心理学演習 子ども家庭支援論 観察実習Ⅰ 社会教育計画論 乳幼児と家庭	［コア科目］ 児童の発達と学習 教育行政学（幼・小） 初等カリキュラム論 初等国語科教育論 初等算数科教育論 初等理科教育論 初等生活科教育論 初等音楽科教育論 初等図工科教育論 初等体育科教育論 初等英語教育論 初等道徳教育論 初等教育方法学 （情報通信技術の活用を含む） 初等国語論 初等社会科論 初等理科論 初等生活科論 初等音楽論 初等家庭科論 初等体育論 初等英語論 ［展開科目］ グローバル教育演習（教育制度） グローバル教育演習（教育方法学） 障害共生教育論 発達障害心理学（障害者・障害児心理学） 発達障害と共生社会1 発達障害と共生社会2 障害児発達学（障害者・障害児心理学） 肢体不自由者心理・生理・病理 支援教育臨床学 臨床発達支援学1 臨床発達支援学2 児童青年精神医学（精神疾患とその治療） 言語発達と教育1（学習・言語心理学2） 言語発達と教育2（学習・言語心理学3） 障害とリハビリテーション 観察実習Ⅱ 学校インターンシップⅠ 生涯学習論	［コア科目］ 教育史（幼・小） 初等社会科教育論 初等家庭科教育論 総合的な学習の指導法（小） 初等特別活動指導論 初等生徒指導論（進路指導を含む） 初等学校教育相談 ［展開科目］ グローバル教育文献演習 比較教育システム論 特別支援教育総論 知的障害の生理・病理 知的障害支援学 発達障害教育論 肢体不自由教育論 障害児支援学概論 数理認識実践研究 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップⅡ 社会教育実践論	［展開科目］ 教育・保育実践演習 （乳幼児教育） 特別支援教育実地研究 学校インターンシップⅢ 教職実践演習（幼・小） 卒業研究
	コース選択	乳幼児教育学コース	［コア科目］ 教育行政学（幼・小） 乳幼児教育課程論 初等カリキュラム論 保育内容研究（健康Ⅰ） 保育内容研究（健康Ⅱ） 保育内容研究（人間関係） 保育内容研究（環境） 保育内容研究（造形表現） 保育内容研究（音楽表現） 保育内容研究（児童文化と言葉） 初等教育方法学（情報通信技術の活用を含む） 初等国語論 初等生活科論 初等音楽論 初等体育論 ［展開科目］ グローバル教育演習（教育制度） グローバル教育演習（教育方法学） 発達障害心理学（障害者・障害児心理学） 発達障害と共生社会1、2 障害児発達学（障害者・障害児心理学） 社会福祉論 幼児心理学演習 観察実習Ⅱ 学校インターンシップⅠ 生涯学習論	［コア科目］ 教育史（幼・小） 乳幼児教育内容・方法論 乳幼児理解と教育相談 初等学校教育相談 子どもの保健と健康 ［展開科目］ グローバル教育文献演習 比較教育システム論 特別支援教育総論 科学教育実践研究 初等教育事前・事後指導 初等教育実地研究 学校インターンシップⅡ 社会教育実践論 数理認識実践研究	［展開科目］ 学校インターンシップⅢ 教職実践演習（幼・小） 教育・保育実践演習 （乳幼児教育） 卒業研究

（注）2年次の始めにコースを選択します。

教員紹介 Faculty Members

グローバル文化学科

地域文化系プログラム

板倉史明 教授
映画学
映画学の専門知識を基礎にして日本映画を研究しています。映画フィルムの保存や復元に関する活動も行っています。

伊藤友美 教授
東南アジア地域研究、タイ社会史
20世紀以降のタイをはじめとする上座仏教諸国において展開する社会運動・宗教・女性の問題について研究しています。

長 志珠絵 教授
日本近現代史、文化研究、ジェンダー史
歴史学の研究者でジェンダー史研究も。主に戦前戦後の日本（ですので、植民地も含めます）で、文化的社会的事象を扱います。

小澤卓也 教授
ラテンアメリカ近現代史、
食のグローバル・ヒストリーズ
中米のナショナリズムや先住民族について研究しつつ、この地域の特産品をキーワードとした世界史の構築を目指しています。

衣笠太朗 講師
ヨーロッパ近現代史、ドイツ＝中東欧の境界地域研究
シレジアをはじめとするドイツ＝中東欧境界地域における集団的帰属意識、分離主義運動、住民移動に関する歴史研究をしています。

昆野伸幸 教授
日本の思想の歴史的研究
おもに20世紀前半の時期における日本のナショナリズムと宗教（とくに神道）との関係について研究しています。

貞好康志 教授
東南アジア地域研究、人間・環境学
インドネシアなど東南アジアの歴史や文化の研究。同時に、人類の未来に日本と東南アジアの経験や智慧をうまく活かす方策の探究。

橘 誠 准教授
歴史学、モンゴル研究
モンゴル国、中国（内モンゴル）、ロシア（ブリヤート）にまたがるモンゴル民族の近現代における歴史と文化を研究しています。

谷川真一 教授
社会学、現代中国研究
現代中国の政治と社会について研究しています。特に文化大革命などの政治・社会運動、政治体制の変容などに関心を持っています。

寺内直子 教授
民族音楽学、日本音楽史
日本、アジア、欧米の音楽・芸能を研究しています。国や地域を越えてダイナミックに交流、変容する文化の動態を捉えます。

中村麻美 講師
イギリス文学、ユートピア・ディストピア、
サイエンス・フィクション
現代のユートピア・ディストピア小説における絶望や希望がどのように表現されているかを分析し、社会的な想像力の詩学を探求します。

西谷拓哉 教授
アメリカ文学、アメリカ映画
アメリカ文学・映画作品を中心として、合衆国の多元的な文化状況や表現様式の独自性を研究しています。

深川宏樹 准教授
文化人類学、社会人類学、オセアニア地域研究
人類学の異文化理解の原論と、我々にとって他なる人間概念と社会性の研究を行い、人間の変身・変容可能性をテーマとしています。

深町 悟 講師
イギリス文学、特に政治的背景の強いもの
19世紀後半から第一次大戦ごろの英国近未来戦争小説（侵攻小説）が英国内、あるいは海外でどのような影響を与えたかを研究しています。

異文化コミュニケーション系プログラム

井上弘貴 教授
政治理論、公共政策論、アメリカ政治思想史
19世紀末から20世紀のアメリカ合衆国の政治、社会、都市について、政治学と思想史の2つの方向から研究をおこなっています。

梅屋 潔 教授
社会人類学、文化人類学、民俗学、宗教学
死霊、呪詛などを中心に、望ましくない現象がなぜ起こるのかという「災因論」と、その逆の「福音論」、呪詛と祝福の民族誌が私のテーマです。

大石侑香 准教授
社会人類学、北極地域研究
人間と自然のかかわりあいに関心があり、自然環境や社会経済的変化に対する人々の文化生態適応について研究しています。

岡田浩樹 教授
文化人類学、越境・多文化研究、宇宙人類学
グローバル化に伴う移民・越境と多文化化の問題、また宇宙開発技術と社会・文化の関係に関しJAXAと共同研究を進めています。

辛島理人 准教授
国際交流、観光、開発援助など経済と文化の関係
アジア太平洋における文化交流を、日本を結節点にして、脱植民地化、移動・移民、経済発展、冷戦といった視点から考えています。

齋藤 剛 教授
文化人類学、中東研究
多様な宗教、民族の人々が混在する中東の一角をなすモロッコに暮らす人びとの生活、宗教、社会関係などについて研究しています。

下條尚志 准教授
歴史人類学、東南アジア地域研究
ベトナム、東南アジアを中心に、戦争や社会主義を経験した人々の生き残る術とローカルな秩序の作り方を研究しています。

周 俊 講師
中国政治史、中国共産党史
現代中国の権威主義体制やカリスマ指導者・毛沢東などに関心があり、希望と絶望を織り交ぜた中国現代史を探求します。

中條健志 講師
移民研究、地域研究（ベルギー）、社会言語学
メディアや政治の世界で「移民」がどのように語られてきたかについて、批判的談話分析の手法を用いて研究しています。

塚原東吾 教授
科学技術医学史、蘭学とEUテクノ政治学
ケイタイが無かったら、キミの生活はどうなる？ 国際政治は「核」で動いている。文科系からそこに、「直球勝負」で挑むのだ！

David Adebahr 講師
国際政治理論、日本政治
太平洋の国際関係を研究しています。特に、対外政策責任者を重視した上、外交政策決定過程などの課題に取り組んでいます。

中村 覚 教授
国際政治、中東政治、平和・安全保障
中東を主な事例に新興・途上国地域における国際政治を研究しています。途上国に適する紛争予防の政策を考えています。

新川匠郎 准教授
政治制度論、ドイツ語圏研究
ドイツ語圏を中心に、経済政策や移民難民政策など各種政策が政治制度（選挙や議会）を介して決まる過程について研究しています。

安岡正晴 教授
現代アメリカ政治、比較公共政策
米国など先進諸国の政策（人種・移民、経済、教育、福祉、医療、税制、環境エネルギー、メディア政策など）を比較研究しています。

現代文化システム系プログラム

青山 薫 教授
社会学、ジェンダー／セクシュアリティ、移住・移民、
調査方法論
「男女」のような二分法を批判的に考察するという大テーマの下、性的マイノリティ、ケア・性労働、国境を越える移動を調査研究。

池田直樹 助教
社会学説史
主に20世紀のアメリカを中心に、同時代の思想的、政治的、文化的文脈を踏まえつつ社会学という学問の意義を検討しています。

石田圭子 教授
美学・芸術論・表象文化論
私の研究テーマは、芸術と社会との関わり、とりわけ芸術と政治の関係について表象・思想史・歴史的観点から考察することです。

礒谷有亮 講師
西洋美術史、写真史
19〜20世紀の主にフランスの写真を、美術、グラフィックデザインや、印刷出版文化との関わりに着目して研究しています。

上野成利 教授
政治思想・社会思想史
理性と暴力、主体と権力、自由と公共性など、政治思想・社会思想史上の重要なテーマをめぐって、哲学的な考察を試みています。

岡本佳子 講師
舞台芸術学、西洋音楽史、中東欧文化研究
ハンガリーを中心とする近現代の音楽と舞台芸術について、作品分析とともに当時の文学や思想との関連から研究しています。

小笠原 博毅 教授
カルチュラル・スタディーズ
メディアとスポーツを「スペクタクル」をキーワードに連結させ、そこに現れる憎悪や差別に対峙する文化的技術を模索しています。

工藤晴子 准教授
国際社会学、移住研究、難民・強制移動研究、
ジェンダー／セクシュアリティ
ひとの国際移動（特に難民・強制移動）や人道支援が、ジェンダーやセクシュアリティとどのように関わっているを研究しています。

櫻井 徹 教授
法哲学
移民・難民、貧困、人権侵害、テロ、内戦といった現代のグローバルな課題をいかに解決するかという問題に取り組んでいます。

鹿野祐嗣 助教
フランス現代哲学、哲学史
20世紀フランスの哲学者ジル・ドゥルーズの著作の注釈的読解を基軸に据えて、哲学史や社会思想、精神分析理論の研究もしています。

高田映介 講師
ロシア文学・演劇、芸術と社会の関係性
19世紀ロシアの作家・劇作家チェーホフについて、文化政策と芸術の関わりを視野にいれつつ散文と戯曲作品の研究をしています。

田中 祐理子 教授
科学認識論、近現代科学史
20世紀の医学・生命科学を中心に科学の歴史を研究しつつ、「人間の認識とはなにか」という哲学の問いに取りくんでいます。

西澤晃彦 教授
社会学、貧困、社会的排除、都市
貧困や社会的排除が人に及ぼすものを、アイデンティティ（自己イメージ）や社会関係のありように特に注目して議論してきました。

箱田 徹 准教授
社会思想史、社会理論、エコロジー
今とは異なる社会のあり方を探る営みとしての社会思想を理論的土台に、環境、気候、資本主義などの今日的課題を考察しています。

吉田駿太朗 講師
現代ダンス研究、身体文化
パフォーマンス・スタディーズ、アートマネジメント
現代の身体表現を用いた芸術、特にダンスの方法論と歴史を研究し、創作の力学、芸術制作の運営、および共創型の実践について議論しています。

言語情報コミュニケーション系プログラム

石田雄樹 講師
フランス文学・思想、物語論
言語学の理論に基づいた文学作品の分析を行っています。主な関心は18世紀フランス、自己語り、幸福、翻訳です。

康 敏 教授
情報科学、教育工学
情報通信技術の情報教育および外国語教育への応用に関してコミュニケーションの視点から研究・開発を行っています。

北田 亮 教授
認知神経科学・心理物理学
外界を認識するこころの仕組みを、心理学や生理学の手法を組み合わせて調べます。

清光英成 教授
ソーシャル・コンピューティング、データ管理、
教育情報システム、社会情報システム
様々なデータを有効に利活用するための情報資料構成ならびにデータ管理、ソーシャル・コンピューティングの肯定的評価と社会還元。

小松原 哲太 准教授
認知言語学、レトリック
意味の柔軟性を生かしたことばのレトリックに興味があり、認知言語学のアプローチから、比喩などの表現法を研究しています。

巽 智子 准教授
第一言語習得、心理言語学、言語学
私たちはどのように言語を身に付けるのでしょうか？ 心理言語学的アプローチで、文法知識の習得のメカニズムを探っています。

田中順子 教授
第二言語習得理論、応用言語学
第二言語習得理論は、人が母語を習得した後で母語以外の言語を習得する際のプロセスやメカニズムについて研究する分野です。

西田健志 准教授
コミュニケーションのユニバーサルデザイン
異なる文化や性格を有する世界中の多様な人々が気持ちよく共存できる、ITを応用したコミュニケーション環境づくりを目指します。

林 良子 教授
音声学、言語学、異文化コミュニケーション
人間のことば（母語・外国語）の音声について、心理言語学、外国語教育、脳科学、言語障害学などの観点から分析します。

牧田 快 講師
認知心理学、神経科学、言語学
ヒトの知覚や学習といった認知機能・行動について、主に脳構造・脳機能画像法を用いて研究しています。

Michael Dean Smith 特任准教授
教育社会学、教育方針、教育の国際化、社会階層、
国際交流
外国語教育、教育の国際化、持続可能な開発のための教育など、教育政策が日本社会に与える影響を研究しています。

松本絵理子 教授
認知心理学、認知神経科学
人間がどのようにして自分を取り巻く世界を認識して行動しているのかを、認知や注意を手がかりに研究しています。

三林亮太 助教
自然言語処理、機械学習
大量のテキストデータをAIを用いて分析・生成することで、新たな知見の発見や創造的な文章を生み出す研究をします。

南 佑亮 准教授
言語学、構文論、語法研究
言語（主に英語・日本語）の様々な構文現象について、「意味がいかに形式に反映されるか」という観点から研究しています。

南本 徹 講師
言語学、歴史言語学、印欧語研究、
古代ギリシア語研究
主に古代ギリシア語（特に方言）の研究をしています。その裏で「人間の言語はどれくらい多様であり得るのか」を考えています。

村尾 元 教授
社会システム科学、機械学習、データサイエンス
機械学習や人工知能の技術を利用して、少数の個人から社会や国際関係までの様々な集団における現象やダイナミクスを分析します。

発達コミュニティ学科

社会エンパワメントプログラム

稲原美苗 准教授
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学
ジェンダー理論、現象学、臨床哲学を用いて、社会に潜む特権性や自明性を疑い、マイノリティの問題について多角的に探究します。

清野未恵子 准教授
自然共生社会、野生動物管理、ESD
農山村地域の人と野生動物の共在を目指した研究実践を軸とし、持続可能な社会づくりのための人材育成に関する研究をしています。

後藤聡美 助教
成人学習論、ESD
福祉教育や開発教育、ESD実践の現場で、多様な人々がどのように接触・交差し、変容していくかということを探究しています。

津田英二 教授
生涯学習論、障害共生支援論
障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシヴな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

松岡広路 教授
生涯学習論、福祉教育・ボランティア学習論
ESD推進の方法論（原理・システム）を、社会教育及び福祉教育・ボランティア学習の観点から考究しています。

大田美佐子 教授 ※
音楽文化史、音楽美学
文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

平芳裕子 教授 ※
表象文化論、ファッション文化論
イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

※他プログラムとの兼担

心の探究プログラム

相澤直樹 准教授
臨床心理学、臨床心理検査（投影法）
青年期の対人恐怖傾向と自己愛傾向、ならびにロールシャッハ検査法を中心とする心理検査法（投影法）について研究しています。

安達友紀 准教授
臨床心理学、慢性痛、ペインマネジメント
慢性痛をもつ人のより良い理解と心理支援が研究テーマです。集学的治療、催眠、認知行動療法、準備性、怒り等に関心があります。

伊藤俊樹 准教授
臨床心理学、芸術療法、消費者の深層心理
心理療法におけるイメージの変化、ロールシャッハテストを用いた芸術家の研究、消費者の深層心理の研究を行っています。

加藤佳子 教授
健康心理学、健康教育
心の健康に関する人の行動を探り、健康行動の獲得に関連する要因について解明し、well-beingの向上を目指しています。

河﨑佳子 教授
臨床心理学、発達臨床心理学
聴覚障害児の心理発達と家族支援に関して実践研究を重ねてきました。また、被虐待児童への心理的ケアについて取り組んでいます。

岸田広平 講師
臨床児童心理学、認知行動療法
子どもに対する認知行動療法、保護者へのペアレントトレーニング、学校でのメンタルヘルス予防教育の研究と実践を行っています。

坂本美紀 教授
教育心理学
児童の協調的な学びのプロセスとその支援に関心があり、科学的思考や科学的リテラシーを育成する授業の開発とその評価に取り組んでいます。

谷 冬彦 准教授
人格心理学
青年期におけるアイデンティティ（自我同一性）の研究を中心として、広く自己や人格に関する実証的研究をしています。

林 創 教授
発達心理学、教育心理学
幼児期から児童期を中心とした認知発達に関心があり、とくに他者の心の理解と関連して、社会性などの発達に関する研究をしています。

古谷真樹 准教授
睡眠心理学、生理心理学、健康心理学
心身健康の維持・増進を図るために、睡眠改善に関する基礎的研究と教育現場や地域における実践的研究を行っています。

山根隆宏 准教授
発達臨床心理学、発達障害児家族支援
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

山本健太 助教
障害者心理学、実験心理学、特別支援教育
自閉スペクトラム症者を対象に記憶が行動選択や感情調整に及ぼす影響について実験心理学的手法を用いて研究しています。

アクティブライフプログラム

秋元 忍 准教授
体育・スポーツ史
19世紀末から20世紀初頭の英国を主たる研究対象として、近代社会におけるスポーツ文化の特質を、歴史学の方法により解明します。

石原 暢 准教授
応用身体運動科学
子どもの運動・スポーツに伴う体力向上や体格の変化が、認知機能と学力に与える効果について研究をしています。

打田篤彦 助教
社会心理学
「生きやすさ」に主眼を置き、私たちと社会・物理環境の相互作用を多角的に検討し、実際の問題解決への貢献を目指しています。

片桐恵子 教授
社会心理学、社会老年学
超高齢社会での高齢者の活躍、人間関係、コミュニケーションを中心に、社会心理学的な関心から学際的な研究を行っています。

木伏紅緒 助教
身体運動制御、ニューロメカニクス
日常動作やスポーツ動作での神経筋制御と動作能力との関係について、運動学的分析や表面筋電図分析を用いた研究をしています。

木村哲也 准教授
身体運動システム論
運動生理学やバイオメカニクスなどの手法から、身体運動の制御メカニズムを明らかにする研究を行っています。

近藤徳彦 教授
応用生理学、運動生理学、環境生理学
物理的な外部環境の変化や運動に対するヒトの呼吸・循環・体温調節機構の適応を、生理学的観点から研究を行っています。

佐藤幸治 准教授
運動生理・生化学
運動やサプリメントによる1型・2型糖尿病の新規予防・治療法の開発及び女性アスリートに対する基礎的研究を行なっています。

髙田義弘 准教授
運動生理学（身体コンディショニング）
競技力向上・障害予防のためのトレーニングと運動による身体コンディションやパフォーマンスへの影響について研究しています。

髙見和至 教授
運動・スポーツ心理学
「運動習慣の心理的プロセス」という、人が運動やスポーツを始める行動の発現から定着、習慣化に至る心理を探求しています。

長ヶ原 誠 教授
スポーツ振興論、国際スポーツ文化論
国内外のスポーツプロモーションに関する実践研究を通じて、活動的なライフスタイルと地域活性化の支援方法を探求しています。

原田和弘 教授
老年行動学、健康スポーツ論
身体活動・運動を通じた健康づくりの実現に貢献することを目指し、高齢者の身体活動・運動習慣の形成について研究しています。

前田正登 教授
スポーツ技術論、スポーツバイオメカニクス、スポーツ工学
スポーツの合理的な動作と技術の習得過程に関する研究、及び、選手の技術レベルに適合するスポーツ用具の研究を行っています。

増本康平 教授
認知心理学、高齢者心理学
世界で進展する高齢社会の問題解決を目指し、加齢が認知、感情、意思決定に及ぼす影響について研究を実施しています。

ミュージックコミュニケーションプログラム

大田美佐子 教授
音楽文化史、音楽美学
文化史的、あるいは越境的な視点から、今現在の文化との関わりを踏まえて、舞台表現や音楽文化の歴史を研究しています。

岡野真裕 助教
認知科学、パフォーマンス科学
わざの修得・熟達に重要なこととは何か。心・身体・環境の相互作用という切り口から、実験やシミュレーションで調べています。

谷 正人 准教授
民族音楽学、イラン伝統音楽
イラン音楽を題材に、即興・オリジナリティ概念を、またサントゥール演奏を通して、音楽演奏に伴う心身の問題を研究しています。

田畑暁生 教授 ※
社会情報学、映像論
新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

津田英二 教授 ※
生涯学習論、障害共生支援論
障害に関する社会的課題を切り口として、インクルーシヴな社会に向かう人々の学びの方法や過程を追究する実践的研究を行っています。

野中哲士 教授
発達科学、生態心理学
わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

※他プログラムとの兼担

アートコミュニケーションプログラム

上田 香 准教授
デザイン学、染織・テキスタイルの創作と研究
デザインとは、美しさを伴う問題解決策です。テキスタイルを通して、実践的で未来を見据えたデザインを制作、研究しています。

岸本吉弘 教授
絵画の創作と研究
近代以降の絵画表現を視覚造形的な視点より分析し、それらに関係対称化される「日本」という存在を見つめています。

清水大地 助教
認知科学、身体性科学
魅力的な表現や振る舞いが生み出される過程について、個人・他者・環境との関わり合いに着目し、フィールドワーク・実験等の手法により研究しています。

関 典子 准教授
舞踊学、コンテンポラリーダンスの創作と研究
舞踊は身体や動きという儚いものを媒体とする芸術です。その現在性にこだわり、表現・研究活動の両面から探究しています。

田畑暁生 教授
社会情報学、映像論
新しいメディアが次々と登場する「情報社会」で発生する問題や、メディアをどう利用すべきなのかといった事柄を研究しています。

野中哲士 教授
発達科学、生態心理学
わざが見せる独特の秩序と、それがかみあう環境の性質から、人の活動が周囲の環境に参加していく発達のプロセスを調べています。

平芳裕子 教授
表象文化論、ファッション文化論
イメージやことばとして表されるファッションの諸問題を、芸術・文化・産業・社会・生活との関わりから考察しています。

環境共生学科

環境自然科学プログラム

青木茂樹 教授
素粒子・宇宙線物理学
ニュートリノ振動に関する実験や成層圏で宇宙から飛来するガンマ線を観測する気球実験など宇宙の成り立ちに関わる研究をしています。

蘆田弘樹 教授
光合成科学、生化学、分子生物学、生物工学
植物、藻類、微生物の光合成メカニズムを遺伝子・タンパク質レベルで解明し、光合成的バイオ燃料・物質生産へ応用する研究を行っています。

丑丸敦史 教授
植物生態学、生物多様性科学
花の進化や送粉ネットワークの構造、農業生態系や都市生態系における生物多様性の維持メカニズムについて研究しています。

江原靖人 教授
生物有機化学
生物の優れた能力を利用した、新規機能性物質の創製、さらに、それらの物質を組み合わせた人工細胞、人工生命の構築を行っています。

大串健一 教授
地球環境、環境地学
地球環境変動のメカニズム解明に向けた古環境研究を行っています。

近江戸 伸子 教授
環境資源植物科学
資源植物を対象に新機能の開発や利用、遺伝特性、環境適応について、ゲノム・染色体・遺伝子の研究を行っています。

黒澤耕介 准教授
惑星科学、宇宙生物学、衝突物理学
初期の太陽系は「天体重爆撃」に晒されました。この時代の惑星、衛星、小惑星の表層初期進化を実験的に調べています。

小谷野由紀 助教
非線形物理学、アクティブマター
生物のような自発的に動き回るアクティブな物体やその集団について、それらに共通する物理的な性質を研究しています。

佐賀達矢 助教
市民科学、行動生態学、環境教育
ヒトが生物を利用する文化的活動やヒトにとっての自然の大切さに興味があります。スズメバチ類の生態や進化の研究もしています。

佐藤春実 教授
高分子化学、高分子振動分光学
環境にやさしい生分解性高分子の構造と物性について、主に振動分光法とX線回折法を用いて研究しています。

高見泰興 教授
進化生態学
昆虫の進化、多様化のメカニズムについて、野外調査、行動実験、形態解析、DNA解析などを組み合わせて研究しています。

谷 篤史 教授
地球惑星科学、物理化学、物性物理学
物質の性質や光・放射線による物質の変化を分光学を用いて調べることにより、地球や惑星の環境を理解する研究をすすめています。

源 利文 教授
環境生理学、水域生態学、感染症生態学
環境DNAなどを用いて生物の分布、行動、生理を調べています。その応用として感染症の生態学にも取り組んでいます。

環境数理科学プログラム

Emerson Gaw Escolar 准教授
位相的データ解析
データの「形」に着目し、遺伝子発現や企業の技術開発などの複雑な現象に潜む構造を抽出する位相的データ解析を研究しています。

桑村雅隆 教授
応用解析学
物理学、化学、生物学などに現れる非線形微分方程式を分岐理論や力学系理論とコンピュータシミュレーションを利用して調べています。

阪本雄二 准教授
数理統計学
株価の変動のような時々刻々とランダムに変化する現象について、そのメカニズムを解明するデータ解析法を研究しています。

周 怡（ぞう い） 助教
医学統計学、生物統計学
医療研究における結論の正確性を高めるため、新しい統計手法を開発しています。データの統合法と偏りの調整法を研究しています。

長坂耕作 准教授
計算機代数、計算機科学
パソコンで代数計算（因数分解や方程式の求解等）を効率的に行う方法、誤差を含む場合や他分野への展開について研究しています。

宮田任寿 教授
幾何学的トポロジー
Shape理論（局所的に複雑な空間への幾何学的なアプローチの方法）、距離空間の幾何学性質（次元など）について研究しています。

生活共生科学プログラム

井上真理 教授
衣環境学、感性工学
グローバルな視点で衣生活の環境への影響を考慮し、人の感覚を主体とした繊維製品の材料設計を提案する研究を行っています。

内山愉太 助教
都市地域環境学、地理情報科学
国内外の都市地域の社会生態系と相互関係に着目した、多様な主体による包摂的な環境マネジメントに向けた研究を行っています。

大野朋子 准教授
緑地環境学、造園学
人間生活と植物利用について探求することで地域固有の景観形成と創造、都市緑地環境の向上に関わる研究をしています。

佐藤真行 教授
環境経済学
環境や生態系の破壊を引き起こす現代の経済システムの問題と、持続可能な発展という課題について研究しています。

田畑智博 准教授
環境システム工学（土木工学）
私達の生活や経済活動が環境にどのような影響を与えているかを体系的に解析し、持続可能な社会のあり方を提案しています。

福田博也 准教授
生体電子計測、ヒューマンエレクトロニクス
人や植物の生体電位を計測することにより、人と環境に優しい技術・物としての「ヒューマンエレクトロニクス」について研究しています。

村山留美子 准教授
環境保健学、環境リスク論
環境からもたらされるリスクと人の健康との間にある問題に、実験や調査手法を用いて特に社会的な側面からアプローチしています。

湯浅正洋 助教
食環境科学
未利用資源の食品としての有用性評価と調理・加工・利用法の提案や、原理に基づいた新しい料理の開発に取り組んでいます。

横内陳正 講師
産業環境保健学
働く人がライフコースを通じて健康でいきいきとキャリアを歩めるような職場・生活環境の解明と実現を目指して研究をしています。

子ども教育学科

社会共生科学プログラム

井口克郎 准教授
社会保障、福祉国家、災害被災者の生活問題
社会保障制度を必要とする人々とそれをになう専門職ら双方の人権が保障される社会保障制度のあり方について研究しています。

太田和宏 教授
途上国政治経済
グローバル社会の抱える諸問題を発展途上国に焦点を当てて研究しています。特に開発政策と政治構造のあり方について検討しています。

坂井晃介 准教授
社会学理論、歴史社会学、福祉国家論
現代社会における制度や理念が成立してきた歴史的プロセスを、社会システム理論をベースに理論的かつ経験的に研究しています。

澤 宗則 教授
人文地理学、地域社会論、移民社会論
日本の地域社会の変容と問題、移民社会の形成と問題、南アジアの開発について人文地理学の視点から研究を行います。

橋本直人 准教授
社会思想、社会学史
現代社会の根底にある考え方を探るために、社会理論の歴史を研究しています。並行して、思想の計量的研究も進めています。

原 将也 准教授
地域研究、環境地理学、生業研究
おもにアフリカと日本の農村を対象に社会、経済、政治、自然環境の変化に対応する人々の暮らしを住民の視点から研究しています。

赤木和重 教授
発達障害心理学
自閉症児における自己と社会性に注目して研究しています。特に教示行為の発達と障害について、実証的な研究を行っています。

Erkki Tapio Lassila 助教
教師教育学、比較教育学
環境によって変わりうる教職と才能教育を、関係者のストーリーを中心に調査し、教師教育プログラムを改善しています。

岡部恭幸 教授
数理認識論、数学教育
算数・数学の教材や授業を通して獲得される数理認識についての研究とその知見に基づく教育内容や方法の開発に取り組んでいます。

川地亜弥子 教授
教育方法学
人間の発達を助成する意図的な営みとして教育をとらえ、研究しています。特に子どもの生活と言語表現の指導に注目しています。

北野幸子 教授
乳幼児教育学、保育学
乳幼児の教育内容や方法、保育者の専門性、その確立や向上を図るシステム（専門組織の活動や政策）について研究しています。

木下孝司 教授
発達心理学
乳幼児期における自己と「心の理解」の発達を中心に、教示行為の発達や、障害をもつ乳幼児の発達保障について研究しています。

田中 伸 准教授
市民性教育、社会科教育学
民主社会において、学校・授業は如何に構想できるか。主体的な社会の形成者としての市民を育てる教育のあり方を研究しています。

勅使河原 君江 准教授
美術・造形教育
美術作家が取り組んだ美術・造形教育についての理論研究と対話型美術鑑賞教育についての実践研究の両面から研究しています。

中谷奈津子 教授
保育学、家族関係学
認定こども園等における子育て支援の研究をしています。子どもの最善の利益と家族の幸せに寄与する保育者の役割を考えています。

村瀬瑠美 助教
身体表現、体育学、舞踊論
子どもの身体による表現と、言葉・運動・遊びの発達との関係や、身体表現におけるイメージと動きの関係について研究しています。

目黒 強 准教授
児童文学、国語教育
近代日本における児童文学という文学場の成立過程の検討を中心に、歴史社会学的観点から児童文学の研究に取り組んでいます。

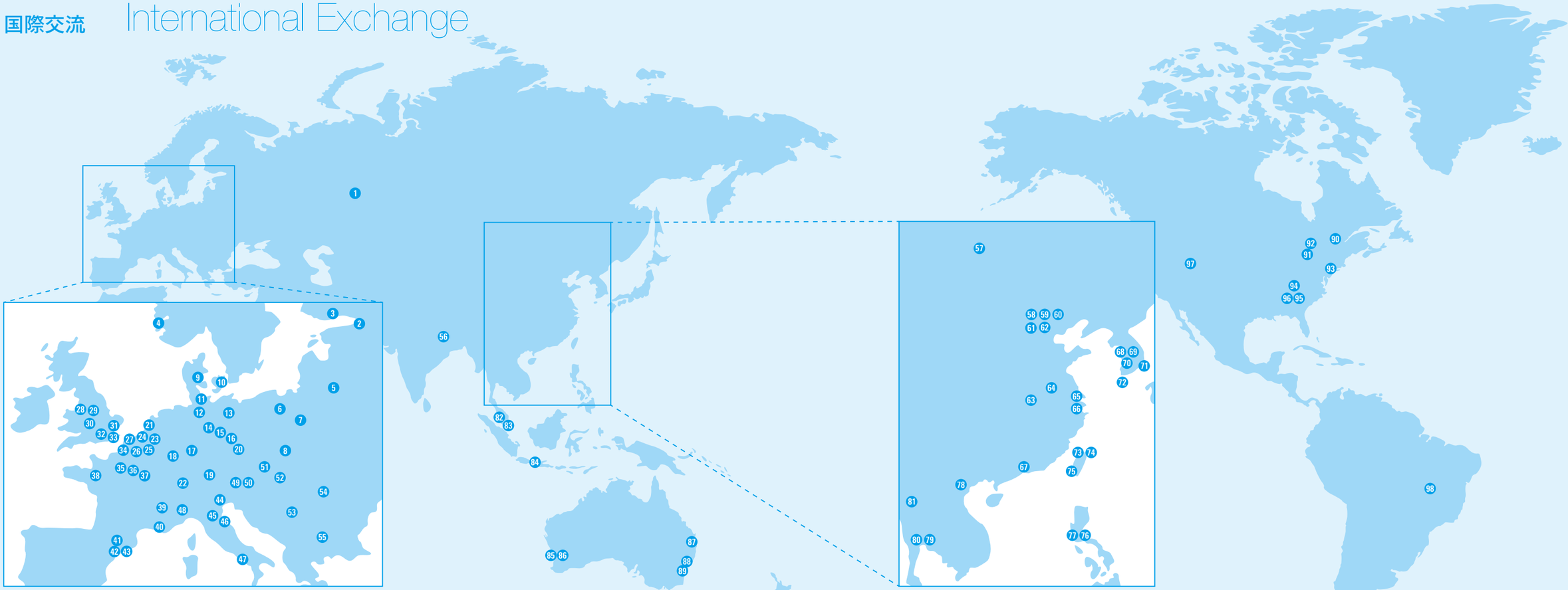
山口悦司 教授
科学教育
人々の科学の学習をイノベーティブに支援するための学習環境デザインについて理論的・実践的に研究しています。

山下晃一 教授
教育制度論、教育経営学
現代学校組織が直面する課題について、地域との矛盾的関係と、教員の困難（特にベテランの「悲哀」）の2点から研究しています。

山根隆宏 准教授
発達臨床心理学、発達障害児家族支援
発達障害における情動・社会性の支援、家族の心理や養育支援について、療育や地域の場で実証的かつ実践的に研究をしています。

渡邊隆信 教授
西洋教育史、教育哲学
20世紀初頭ドイツの「新教育」と呼ばれる教育改革の思想と実践について研究しています。日独の教師教育改革も研究対象です。

国際交流 International Exchange



主な協定校 Partner Schools

ロシア Russia
1 Ural Federal University
2 Saint-Petersburg State University

フィンランド Finland
3 University of Helsinki

ノルウェー Norway
4 University of Bergen

リトアニア Lithuania
5 Vilnius Gediminas Technical University

ポーランド Poland
6 Nicolaus Copernicus University in Toruń
7 University of Warsaw
8 Jagiellonian University

デンマーク Denmark
9 Aarhus University
10 University of Copenhagen

ドイツ Germany
11 Kiel University
12 University of Hamburg
13 Free University of Berlin
14 Martin Luther University Halle-Wittenberg
15 Leipzig University
16 Technical University of Dresden
17 Technical University of Darmstadt
18 Trier University
19 Technical University of Munich

チェコ Czech
20 Charles University

オランダ Netherland
21 Leiden University

スイス Switzerland
22 University of Basel

ベルギー Belgium
23 Katholieke Universiteit Leuven
24 Université Saint-Louis - Bruxelles
25 Vrije Universiteit Brussel
26 Université Libre de Bruxelles (ULB)
27 Universiteit Gent

英国 United Kingdom
28 The University of Manchester
29 The University of Sheffield
30 University of Birmingham
31 University of Essex
32 School of Oriental and African Studies (SOAS) University of London
33 University of Kent

フランス France
34 Université de Lille
35 Université Paris Nanterre
36 Université Paris Cité
37 Université Paris 2 Panthéon-Assas
38 Université de Rennes 1
39 Université Grenoble Alpes
40 L'Université d'Aix-Marseille

スペイン Spain
41 Autonomous University of Barcelona
42 University of Barcelona
43 Pompeu Fabra University

イタリア Italy
44 Università Ca' Foscari Venezia
45 Università di Bologna
46 Università di Bologna Campus di Forlì
47 Università degli Studi di Napoli "L'Orientale" UNIOR
48 Università di Torino

オーストリア Austria
49 FH JOANNEUM University of Applied Sciences
50 University of Graz

スロバキア Slovakia
51 Comenius University

ハンガリー Hungary
52 Eotvos Lorand University

セルビア Serbia
53 University of Belgrade

ルーマニア Romania
54 Babes-Bolyai University

ブルガリア Bulgaria
55 Sofia University St.Kliment Ohridski

ネパール Nepal
56 Tribhuvan University

モンゴル Mongolia
57 National University of Mongolia

中国 China
58 Tsinghua University
59 Renmin University of China
60 Beijing Normal University
61 Beijing Foreign Studies University
62 Minzu University of China
63 Wuhan University
64 Nanjing University
65 East China Normal University
66 Shanghai Jiao Tong University
67 The University of Hong Kong

韓国 Korea
68 Chung-ang University
69 Seoul National University
70 Korea Nazarene University
71 Pusan National University
72 Jeju National University

台湾 Taiwan
73 National Taiwan University
74 National Chengchi University
75 National Cheng Kung University

フィリピン Philippines
76 Ateneo de Manila University
77 San Beda College

ベトナム Vietnam
78 Vietnam National University Ho Chi Minh City, University of Social Sciences and Humanities

タイ Thailand
79 Kasetsart University
80 Thammasat University
81 Chiang Mai University

マレーシア Malaysia
82 University of Malaya

シンガポール Singapore
83 Nanyang Technological University

インドネシア Indonesia
84 Gadjah Mada University

オーストラリア Australia
85 The University of Western Australia
86 Curtin University
87 The University of Queensland
88 The University of New South Wales
89 University of Wollongong

カナダ Canada
90 University of Ottawa
91 Huron University College
92 University of Western Ontario

アメリカ合衆国 United States
93 Queens College of The City University of New York
94 The University of Tennessee at Knoxville
95 University of Georgia
96 Georgia Institute of Technology
97 Utah State University

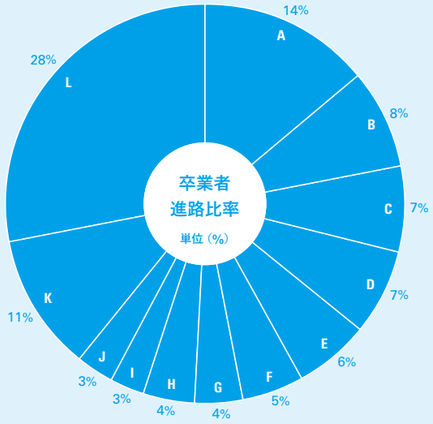
ブラジル Brazil
98 University of Brasilia

交換留学生の受け入れ

国際人間科学部生は、36か国の98協定校に交換留学が可能です。国際人間科学部では、これらの協定校から、年間約80名の交換留学生を受け入れています。本学部キャンパスにおいて、留学生と共に学びながら、様々な異文化に触れることができます。また、本学部では在学生によるチューター組織があり、留学生の来日時の諸手続き、学修、日常生活などのサポートを行っています。留学生とのパーティーや姫路ショートトリップなどの行事や、ハイキング、花見、紅葉狩り、六甲祭出店など様々な自主イベントの企画・運営も行います。これらの交流活動を通して広い世界を知り、体験し、飛躍する力を身に付けることができます。

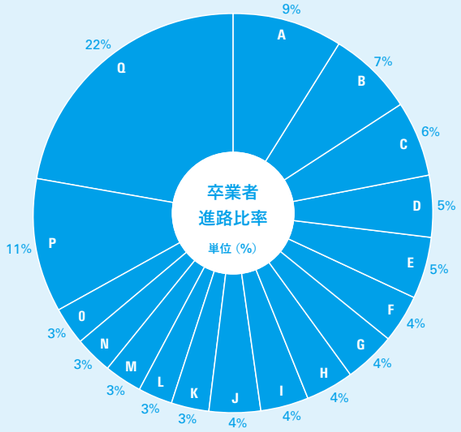
進路実績 Career

グローバル文化学科 業種別 進路比率



業種	主な就職先
A 情報通信業	TBSテレビ
B 金融業・保険業	西日本電信電話（NTT西日本）
C 電気・情報通信機械器具製造業	毎日放送
D 運輸業、郵便業	三井住友銀行
E 卸売業・小売業	東京海上日動火災保険
F 学術研究・専門・技術サービス業	ダイキン工業
G 生活関連サービス業・娯楽業	西日本旅客鉄道（JR西日本）
H 学校教育	住友商事
I 電気・ガス・熱供給・水道業	産業技術総合研究所
J 複合サービス事業	オリエンタルランド
K 進学	大阪府立高等学校（教員・英語）
L その他	関西電力
	楽天グループ
	サントリーホールディングス
	神戸製鋼所
	積水ハウス
	TOPPAN
	オムロンソーシアルソリューションズ
	日産自動車

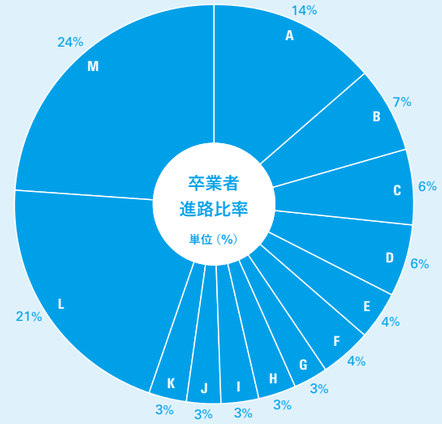
発達コミュニティ学科 業種別 進路比率



業種	主な就職先
A 情報通信業	TIS
B その他の教育・学習支援業	ソニーミュージックグループ
C 金融業・保険業	ヤマハ音楽教室
D 学術研究・専門・技術サービス業	公文教育研究会
E 複合サービス事業	南都銀行
F 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業	日本生命保険
G その他の製造業	アクセンチュア
H 運輸業、郵便業	博報堂
I 卸売業・小売業	パソナグループ
J 学校教育	ベネッセスタイルケア
K 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	住友電気工業
L はん用・生産用・業務用機械器具製造業	川崎重工業
M 電気・情報通信機械器具製造業	美津濃（ミズノ）
N 不動産業・物品賃貸業	日本航空
O 地方公務	ニトリ
P 進学	大阪府立高等学校（教員・保健体育）
Q その他	ハウス食品
	島津製作所
	日立製作所
	ザイマックス関西
	神戸市役所

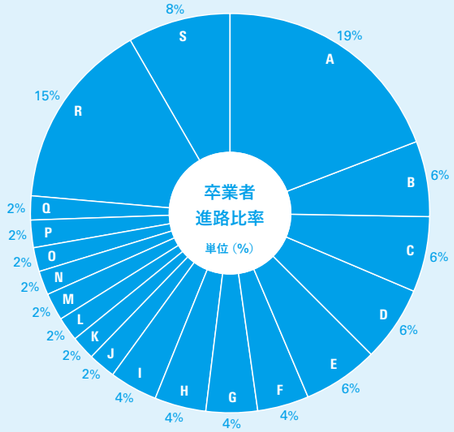
※小数点以下第1位を四捨五入しているため、合計しても100%にならない場合があります。

環境共生学科 業種別 進路比率



主な就職先	業種
NTTドコモ	A 情報通信業
伊藤忠テクノソリューションズ	B 卸売業・小売業
富士通Japan	C 金融業・保険業
アイジーエー	D 地方公務
阪和興業	E 運輸業、郵便業
三井住友カード	F 不動産業・物品賃貸業
日本取引所グループ	G 鉄鋼業・非鉄金属・金属製品製造業
神戸市役所	H 電子部品・デバイス・電子回路製造業
大阪市役所	I 電気・情報通信機械器具製造業
日本貨物鉄道	J 複合サービス事業
日本通運	K その他のサービス業
オリックス・レンテック	L 進学
東京建物	M その他
UACJ	
住友電気工業	
オムロン	
村田製作所	
キヤノン	
日立製作所	
西日本高速道路	
デロイトトーマツアクト	

子ども教育学科 業種別 進路比率



主な就職先	業種
神戸市立小学校（教員）	A 学校教育
吹田市立小学校（教員）	B 情報通信業
西宮市立小学校（教員）	C 卸売業・小売業
尼崎市立小学校（教員）	D 社会保険・社会福祉・介護事業・保育所
広島県立特別支援学校（教員）	E 地方公務
サイバーエージェント	F その他の製造業
電通デジタル	G 電気・ガス・熱供給・水道業
東和エンジニアリング	H 金融業・保険業
良品計画	I 複合サービス事業
神戸市立保育所	J 建設業
名古屋市立保育所	K 食料品・飲料・たばこ・飼料製造業
京都市役所	L 化学工業・石油・石炭製品製造業
川西市役所	M 電気・情報通信機械器具製造業
トーカロ	N 学術研究・専門・技術サービス業
ネットラーニングホールディングス	O 生活関連サービス業・娯楽業
大阪ガス	P その他のサービス業
中部電気保安協会	Q その他の専門・技術サービス業
りそな銀行	R 進学
日本生命保険	S その他
パソナグループ	

キャリア支援

国際人間科学部では、所属する学生一人ひとりのキャリア形成を積極的に行っていきます。キャリア形成を支援するキャリアサポートセンターを設置し、さまざまな就職活動支援セミナー（グループディスカッション練習、面接対策なども含む）、教員採用試験対策講座、教員採用セミナー、公務員試験対策講座（心理・福祉系など）、キャリア講座などを開催しています。また、キャリアアドバイザーが、就職活動全般、自己分析支援、業界・企業・仕事研究支援、エントリーシート作成支援、論作文フィードバック、模擬面接、大学院進学・キャリアなどに関する相談に対応しています。

募集人員、取得可能な資格免許、学生支援

Admissions, Available Licenses, Student Support

2026年度学生募集人員

学科	入学定員	一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜	私費外国人留学生特別選抜
		前期日程	後期日程		「志」特別選抜		
グローバル文化学科	140名	95名	35名	—	—	10名	若干名
発達コミュニティ学科	100名	54名	10名	アクティブライフ受験　12名 ［**表現領域受験**］ 音楽受験　12名 美術受験　8名 身体表現受験　4名	—	—	若干名
環境共生学科	80名	文化系 23名 理科系 30名	文化系 8名 理科系 9名	—	10名	—	若干名
子ども教育学科	50名	39名	11名	—	—	—	若干名

取得可能な資格免許

学科	取得可能な資格	取得可能な免許
グローバル文化学科	学芸員	中学校教諭一種（英語） 高等学校教諭一種（英語）
発達コミュニティ学科	学芸員 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格 公認心理師受験資格（注1）	中学校教諭一種（音楽、美術） 高等学校教諭一種（音楽、美術）
環境共生学科	学芸員 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格	中学校教諭一種（理科、数学、家庭、社会） 高等学校教諭一種（理科、数学、家庭、地理歴史、公民）
子ども教育学科	学芸員 社会教育主事（社会教育士） 社会福祉主事任用資格	幼稚園教諭一種 小学校教諭一種 特別支援学校教諭一種

（注1）「心の探究プログラム」を選択する学生が主。受験資格取得には、卒業後に大学院で公認心理師科目を修得するか、一定期間の実務経験が必要です。

学生生活支援

充実した学生生活をサポートするために様々な制度を用意しています。 詳細については、
神戸大学ウェブサイトの「学生生活・学生支援」（https://www.kobe-u.ac.jp/ja/campus-life/）をご覧ください。

奨学金

日本学生支援機構、民間奨学団体、地方公共団体及び神戸大学による奨学金の他、入学料免除、授業料免除の制度があります。

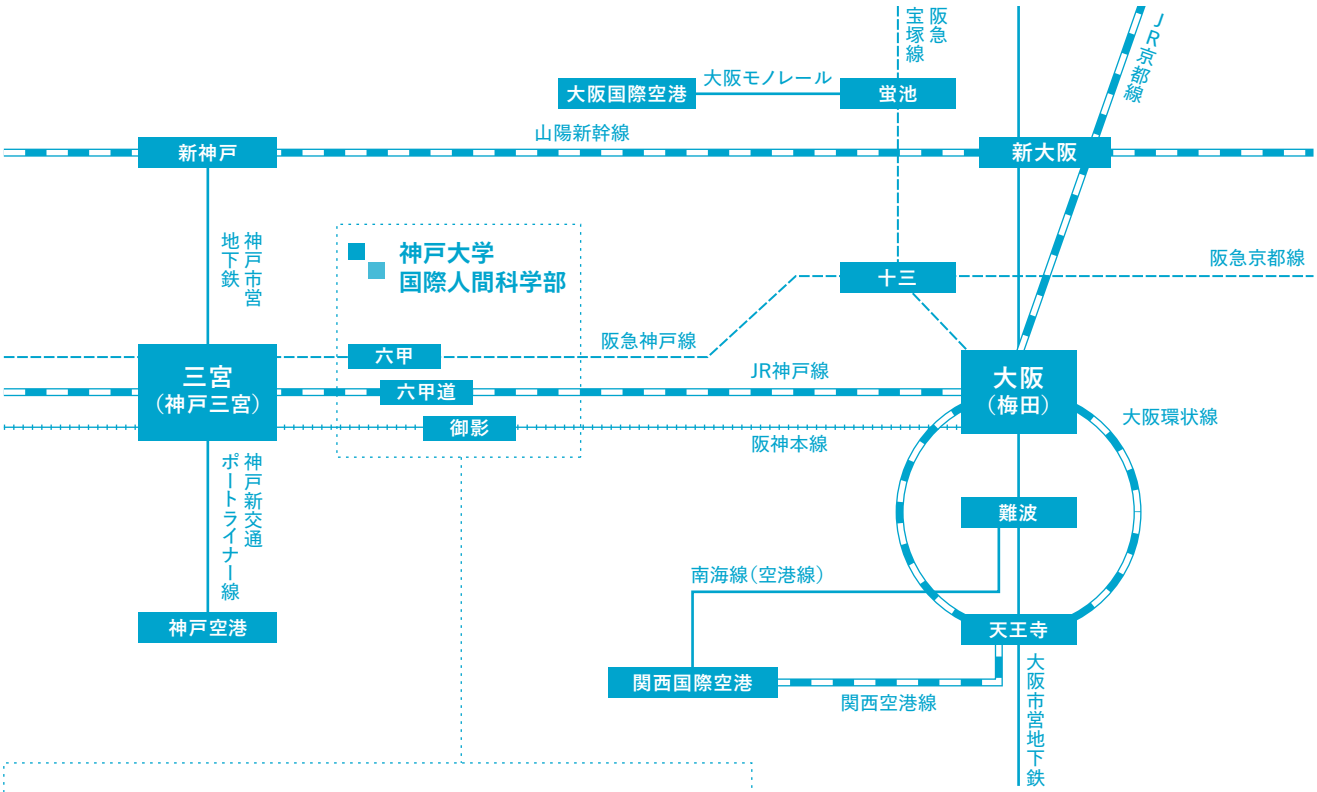
学生寮

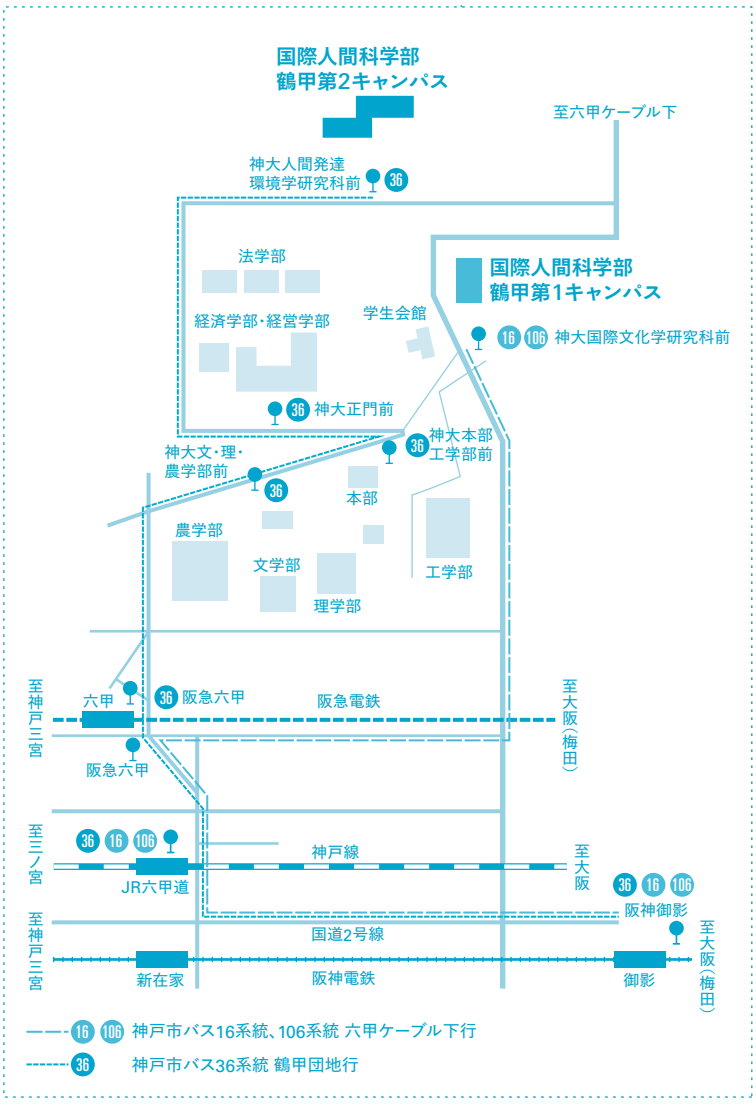
修学に適する良好な環境を提供するため、学生寮を設置しています。日本人学生と留学生の混在型となっており、国際的な交流ができることもメリットです。

健康

保健管理センターにおいて、医師やカウンセラーが常駐し、心身の健康に関するあらゆる相談を受け付けています。

アクセス Access





最寄りの駅からのアクセス

最寄りの駅は、阪急電車「六甲」駅、JR「六甲道」駅または阪神電車「御影」駅。

鶴甲第1キャンパス

神戸市バス16系統、106系統「六甲ケーブル下方面」または「神戸大学鶴甲第一キャンパス東門」行に乗車、「神大国際文化学研究科前」で下車。

鶴甲第2キャンパス

神戸市バス36系統「鶴甲団地」行（「鶴甲2丁目止」行）に乗車、「神大人間発達環境学研究科前」で下車。

神戸大学 国際人間科学部

鶴甲第１キャンパス
[グローバル文化学科]
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲1-2-1
電話 078-803-7515（代表）

鶴甲第２キャンパス
[発達コミュニティ学科、環境共生学科、子ども教育学科]
〒657-8501 兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11
電話 078-803-7905（代表）

https://www.fgh.kobe-u.ac.jp

2025年6月発行

KOBE
UNIVERSITY